

ヒモラン *Lycopodium sieboldii* Miq.

【選定理由】

個体数階級 4、集団数階級 4、生育環境階級 3、人為圧階級 3、固有度階級 2。自然度の高い森林に依存する植物で、県内では生育地も個体数も極めて少なく、人為的な採取圧も高い。

【形態】

常緑性の多年生シダ植物。茎は細く、ひも状、基部で繰り返し分岐するため枝が叢生しているように見え、長さ 20~50cm、緑色~黄緑色である。葉は鱗片状で小さく、茎に圧着してらせん状につき、三角状卵形~卵形、長さ 2mm 以下、内側に湾曲する。胞子のうは小枝先端部の葉腋につき、胞子のう穂ははっきりしないか、その部分がやや太くなる。胞子葉は栄養葉とほとんど同じか、わずかに幅広い。

【分布の概要】

【県内の分布】

設楽西部（小林 83576、2001 年版の鳳来北東部は誤り）。1 カ所に少数個体が生育しているだけである。

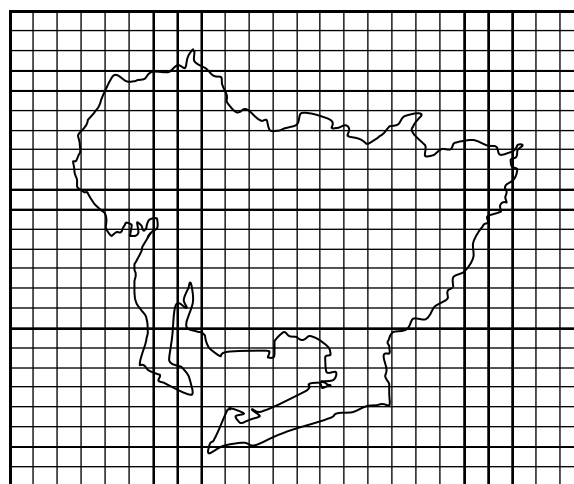
【国内の分布】

本州南部（伊豆半島、東海道、紀伊半島）、隠岐島、四国、九州、琉球。屋久島には比較的多いが他では稀少で、また減少傾向が著しい。

【世界の分布】

日本、済州島、台湾、中国大陸。

要配慮地区図



【生育地の環境 / 生態的特性】

暖帯域の深山の沢沿いにある自然林の樹幹に着生することが多いが、林内の岩上に生育することもある。愛知県のものは岩上に生育しているという。

	山地	丘陵	平野	海浜
森林	○			
草・岩				
湿地				
水域				

【現在の生育状況 / 減少の要因】

自生地は接近しにくい場所であるため、現在のところは過去の状態が維持されているらしい。全国的には森林の伐採と園芸目的の採取が減少の主要因である。

【保全上の留意点】

園芸目的の採取を防止するため、分布情報の公表に際し慎重な配慮が必要である。また、本種が生育できるような自然度の高い照葉樹林は、愛知県では僅かに残存するだけであり、現在残っている林は厳重に保全する必要がある。

【特記事項】

九州南部と琉球列島には、茎の基部の葉が開出するリュウキュウヒモラン *var. christensenianum* (Christ et Hert.) Tagawa が分布している。

【関連文献】

保シダ p.11、平シダ p.44、SOS 旧版 p.36、環境庁 p.66。
倉田 悟・中池敏之(編), 1990. 日本のシダ植物図鑑 6: 122-125. 東京大学出版会, 東京。

ニッコウシダ *Thelypteris nipponica* (Franch. et Sav.) Ching

【選定理由】

個体数階級 3、集団数階級 4、生育環境階級 4、人為圧階級 2、固有度階級 2。温帯性の植物で、分布域の南限にあたる。県内では生育地も個体数も極めて少なく、存続の基盤が脆弱である。総点は 15 であるが、森林化の進行による湿地の消失とシカの食害が懸念されるため、CR と評価する。なお、この評価は狭義のニッコウシダを対象としたものであり、メニッコウシダ (ケヒメシダ) var. *borealis* (H.Hara) H.Hara はリスト外である。

【形態】

夏緑性の多年生草本。根茎はやや短くは、先端に葉を叢生する。葉柄は長さ 15cm をこえ、わら色でまばらに微毛があり、基部は暗褐色で鱗片がある。葉身は披針形～細い楕円形、2 回羽状深裂、長さ 50～70cm、幅 10～15cm、下部の羽片は次第に著しく短くなる。孢子のう群は裂片の辺縁と中肋の中間につき、包膜は円腎形で単細胞のとがった毛と腺毛がある。

【分布の概要】

【県内の分布】

豊根 (芹沢 82111)。現在のところ 1 カ所を確認されているにすぎない。

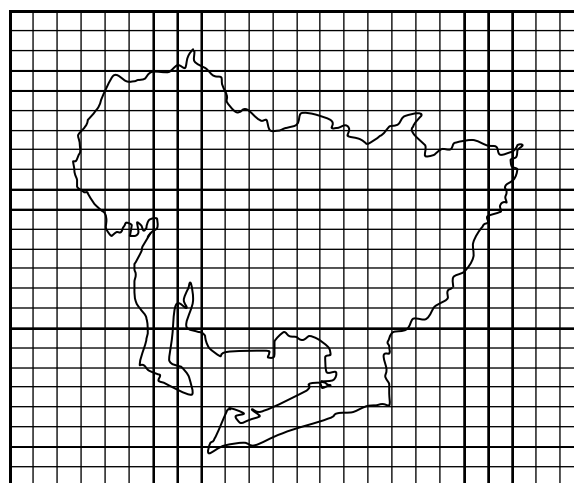
【国内の分布】

北海道および本州 (中部地方以北)。

【世界の分布】

日本、朝鮮半島、中国大陸。

要配慮地区図



【生育地の環境 / 生態的特性】

日当たりのよい、あるいは半日陰の湿地に群生する。

	山地	丘陵	平野	海浜
森林				
草・岩				
湿地	○			
水域				

【現在の生育状況 / 減少の要因】

造林地内に残存した小湿地に、小群落があるだけである。2つの小群落の片方は、被陰により著しく衰退している。また、周辺ではシカによる林床植物の食害が著しく、本種についても食害を受けるのは時間の問題と思われる。

【保全上の留意点】

周辺の樹木を伐採して光条件を確保すると共に、シカ防護柵の設置を検討すべきである。また、東三河のなだらかな山陵部に点在する小湿地は、拡大造林や牧場造成などにより、詳細な調査が行われないままほとんど消滅している。現在残存している湿地は、特に注意して保全する必要がある。

【特記事項】

メニッコウシダは下部羽片があまり短くならず、包膜にほとんど毛がないもので、三河山地に点在しており、猿投山の瀬戸市側にもある。

【関連文献】

保シダ p.110、平シダ p.216。
倉田 悟・中池敏之(編), 1983. 日本のシダ植物図鑑 3: 634-637. 東京大学出版会, 東京。

アカウキクサ *Azolla imbricata* (Roxb. ex Griff.) Nakai

【選定理由】

個体数階級 3、集団数階級 4、生育環境階級 4、人為圧階級 3、固有度階級 2。全国的に減少傾向の著しい水生植物である。

【形態】

小形で常緑性の水生シダ植物。茎はやや密に分岐し、葉と少数の根を生じ、植物体の全形は三角形で、長さ 1~1.5cm になる。葉は互生して瓦のように密につき、鱗片状で三角状円形、無柄、上下に 2 裂し、辺縁は半透明の膜質で、表面に粒状の突起が密生する。根には長い根毛がある。胞子のう群は秋以降に成熟する。夏にはほとんど緑白色のこともあるが、冬には鮮やかな赤色になる。

【分布の概要】

【県内の分布】

1985 年以降では、豊川宝飯（小林 62174）、御津（瀧崎吉伸 10131）、豊橋南部（小林 68233）、豊田東部（芹沢 76633）、半田武豊（中井三従美 33）で採集されている。しかし、どの場所もごく最近の状況が確認されておらず、すでに絶滅した場所も多いと思われる。渥美（和地、浜島繁隆 1091, 1980-7-30）、豊田北西部（猿投山、岡本英一 84, 1958-10-19）、海部東部（美和町蜂須賀、沢井輝男 s.n., 1932-7-29）で採集された標本もある。かつては普通の水田雑草で、更に多くの区画で生育していたものと思われるが、資料はほとんど残されていない。

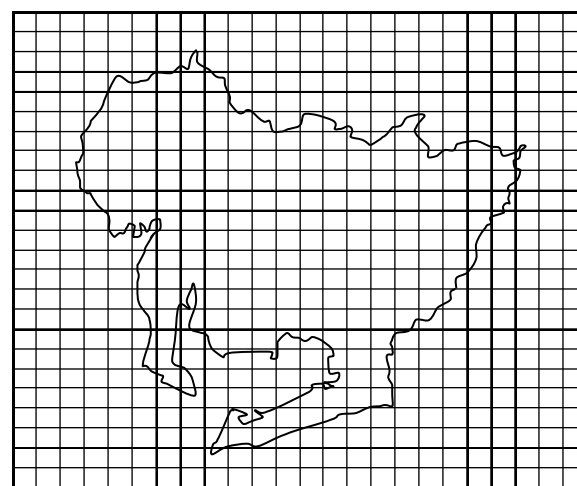
【国内の分布】

本州（東海地方以西の暖地）、四国、九州、琉球。

【世界の分布】

日本、朝鮮半島南部、台湾、中国大陸、インドなど。

要配慮地区図



【生育地の環境 / 生態的特性】

水田やその周辺の水路に生育する浮遊植物で、しばしば栄養的に繁殖して水面をおおう。

	山地	丘陵	平野	海浜
森林				
草・岩				
湿地				
水域		○	○	

【現在の生育状況 / 減少の要因】

水田の雑草であったが、乾田化によって越冬する場所がなくなったことと、除草剤の使用、水の汚染などによって激減した。現在では湧水のある谷戸田などに僅かに残存しているだけである。しかし、このような場所では減反政策や営農者の高齢化による耕作放棄が進行しており、ヨシなどの大形草本におおわれて消滅した例もある。豊田東部では大雨で畔が崩れ、耕作放棄された。

【保全上の留意点】

もともと水田雑草であるから、谷戸田のような汚水が流入しない生育地で除草剤を使わない水田耕作を続ければ、確実に保全できる。日本列島の平野部が水田化される前は、平野部の湧水池や網の目状の小河川に生育していたものと思われるが、現在ではそのような場所は全く残されていない。本来の生育場所が全て奪われている植物を将来とも存続させるためには、継続的な人為的管理が必要である。自然のままに任せるのが自然保護だという考え方は、このような場合通用しない。

【特記事項】

近縁の外來種が全国的に増加しており、愛知県でも幡豆や名古屋北部で確認されている。詳細は近いうちに発表されると聞いているが、識別に注意が必要である。

【関連文献】

保シダ p.172、平シダ p.285、SOS 旧版 p.43、環境庁 p.430。
倉田 悟・中池敏之（編）、1987。日本のシダ植物図鑑 5: 784-788。東京大学出版会、東京。

ヤチヤナギ *Gale belgica* Duham. var. *tomentosa* (C.DC.) Yamazaki

【選定理由】

個体数階級 4、集団数階級 4、生育環境階級 4、人為圧階級 2、固有度階級 4。愛知県の湧水湿地を特徴づける寒冷地系植物の中でも最も顕著なもので、著しく隔離的に分布する。県内では生育地も個体数も極めて少なく、また減少傾向も著しい。

【形態】

落葉性の低木。高さ 30~80cm になる。枝は黒褐色で、若枝には白色の軟毛がやや密に生える。葉はほとんど無柄、葉身は倒披針形~倒卵状長楕円形、長さ 2~5cm、幅 0.8~2cm、先端は円頭、基部はくさび形、先端部に少数の鋸歯があるほかは全縁、両面に軟毛があり、淡黄色の油点が散在する。雌雄異株で、花期は 3 月下旬~5 月、雄花序は長さ 7~10mm、雌花序は長さ 5~8mm となるが、愛知県では雄株しか知られていない。

【分布の概要】

【県内の分布】

田原赤羽根(芹沢 51274)。1カ所に小群落がある。豊川宝飯(一宮町大木, 芹沢 51220, 1989-4-22)と豊橋南部(広見付近, 恒川敏雄 s.n., 1947-9-24, TMNH)にも生育していたが、前者は周囲の樹木の生長によって被陰され、後者は開発により生育していた湿地が破壊されて絶滅した。名古屋北部(東山動植物園の近く)にも自生状に生育している場所があるが、これは移植されたものである。尾瀬でさえ隔離分布となる本種が温暖な東海地方の低地に生育しているのは、極めて注目すべきことである。

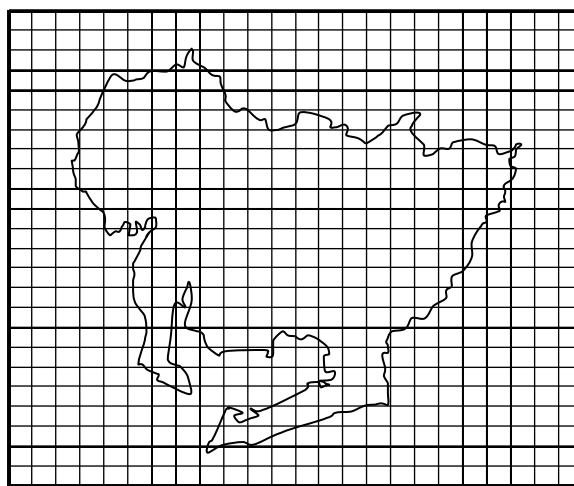
【国内の分布】

北海道、本州(東北地方北部、尾瀬、愛知県、三重県)。

【世界の分布】

千島列島、サハリン、日本、朝鮮半島北部、シベリア東部。種としては北半球の寒冷地に広く分布する。

要配慮地区図



【生育地の環境 / 生態的特性】

泥炭湿地の、多少陸化が進んだ部分に生育する。ただし愛知県と三重県の自生地は、湧水湿地である。

	山地	丘陵	平野	海浜
森林				
草・岩				
湿地		○		
水域				

【現在の生育状況 / 減少の要因】

田原(黒河湿地)では激減して数株しか残存していないが、現在は小康状態を保っている。湿地自体は県指定の天然記念物として保護されているが、富栄養化が進んでおり、将来の存続が懸念される。

【保全上の留意点】

黒河湿地は水源のはっきりしない湿地で、水質の維持が難しい。少なくとも上流側での負荷行為は回避する必要がある。

【特記事項】

本種は北海道の湿地では普通に見られるため、国レベルのレッドリストではリスト外になってしまう。愛知県および三重県の本種は、地方版レッドデータブックの必要性を示す典型的な事例として、しばしば取り上げられている。東京大学総合研究博物館(TI)には牧野富太郎氏が三河高師村で 1894 年 10 月 29 日に採集した標本が保管されており、「原頭湿沓ノ地ニ自生ス」と付記されている。

【関連文献】

保木 II p.350、平木 I p.27、SOS 旧版 p.44+図版 17、SOS 新版 p.98,100。

ミヤコミズ *Pilea kiotensis* Ohwi

【選定理由】

個体数階級 3、集団数階級 4、生育環境階級 3、人為圧階級 3、固有度階級 3。やや稀少な西日本系の植物で、愛知県は分布域の東限にあたる。県内では生育地も個体数も極めて少ない。

【形態】

多汁質の 1 年生草本。茎の下部は地上をはって枝を分けるとともに不定根を出し、上部は斜上または直立して高さ 20～30cm になる。葉は対生し、長さ 6cm に達する柄があり、葉身は卵形、長さ 4～9cm、先端は鋭尖頭、基部はくさび形で左右非対称、片側は外に凸、片側は内に凸の曲線となり、辺縁には 4～8 個の大きな鋸歯がある。花期は 9～10 月、集散花序は葉腋から出て、茎の先端部につくものは雄花が多く、直径 8～15mm、下のものほど長い柄があつて全体として茎頂に集まり、それより下の葉腋につくものは雌花が多く、柄は短い。花序の柄は片側に毛がある。

【分布の概要】

【県内の分布】

名古屋北部（鳥居ちよ子 2198）。1 カ所に小群落がある。

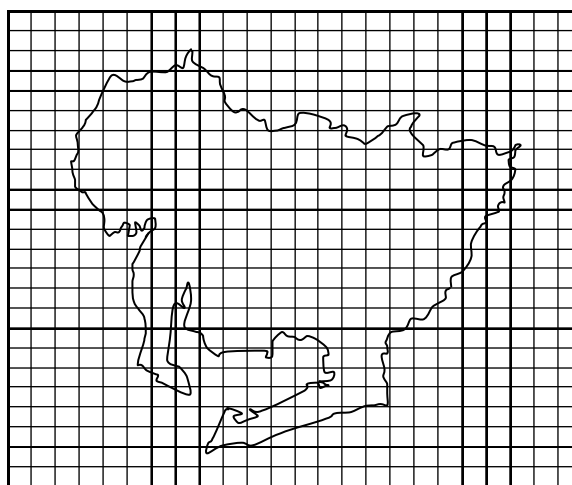
【国内の分布】

本州西部、九州北部。

【世界の分布】

日本固有種。

要配慮地区図



【生育地の環境 / 生態的特性】

沢沿いの湿った林内に生育する。

	山地	丘陵	平野	海浜
森林		○		
草・岩				
湿地				
水域				

【現在の生育状況 / 減少の要因】

小川の岸に小群落がある。現地は名古屋市内では奇跡的に開発を免れた、やや深山的な感じのする場所である。

【保全上の留意点】

生育地の地形を保全すること、川の水質を維持することが必要である。目立たない植物なので園芸目的の採取は考えにくい、希少ということで多くの人に知られるようになれば、観察者や写真撮影者の踏み荒らしも懸念される。

【特記事項】

レッドデータブックあいち 2001 植物編発行後に愛知県での生育が確認された種類である。彩色画はレッドデータブックなごや 2004 植物編 図版 2 に掲載されている。

【関連文献】

保草Ⅱp.334、平草Ⅱp.5、環境庁 435。

ヒロハマツナ *Suaeda malacosperma* H.Hara

【選定理由】

個体数階級 3、集団数階級 4、生育環境階級 4、人為圧階級 3、固有度階級 3。全国的に見ても希少な塩湿地性植物で、愛知県は分布域の東限にあたる。県内では、生育地も個体数も極めて少ない。

【形態】

1年生草本。茎は基部が直立し、多くの枝を分け、高さ10~30cmになる。葉はやや密に互生し、葉身は長楕円形~広線形、扁平で長さ約3.5cm、幅2.5~4mm、辺縁は全縁である。花期は10~11月、花は葉腋に1~5個かたまつてつく。胞果は扁球形、直径2~2.5mm、種子は白色で、光沢がなく、直径約1.5mmである。

【分布の概要】

【県内の分布】

渥美(芹沢74395)。1カ所に小群落がある。

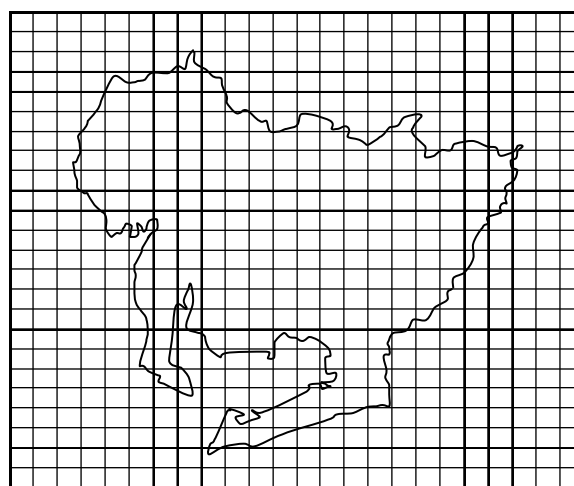
【国内の分布】

本州西部、九州。

【世界の分布】

日本固有種。

要配慮地区図



【生育地の環境 / 生態的特性】

海浜の塩湿地の、満潮時には水没するような場所に生育する。

	山地	丘陵	平野	海浜
森林				
草・岩				
湿地				○
水域				

【現在の生育状況 / 減少の要因】

生育範囲は狭く、個体数も少ない。開発や水の汚れがあれば容易に消滅する。

【保全上の留意点】

見栄えのしない植物であるため採取されるおそれはないが、粗略に扱われる可能性が高く、特に注意が必要である。また、本種が生育するような内湾の塩湿地は、開発圧力が高く、全国的にも愛知県でも急激に減少している。現在残存している場所は、護岸工事等の影響を受ける可能性があり、特に注意して保全する必要がある。生育地の直接的な改変を避けることはもちろんであるが、通常は河口にあるので、流入する河川の水質維持にも注意を払う必要がある。

【特記事項】

ハマツナ *S. maritima* (L.) Dumort. に比べ植物体の丈が低く、葉が扁平で幅広い。ハマツナは今回の評価ではリスト外になったが、この種も愛知県ではそれほど多いものではない。

【関連文献】

保草Ⅱp.289、平草Ⅱp.49、SOS旧版p.48+図版32、環境庁p.442、SOS新版p.155,157。

コバノリュウキンカ

Caltha palustris L. var. *nipponica* H.Hara form. *pygmaea* (Makino) Ohwi (図版 2)

【選定理由】

個体数階級 3、集団数階級 4、生育環境階級 4、人為圧階級 3、固有度階級 3。温帯域の水辺に生育する植物で、愛知県では生育地が極めて少ない上、園芸目的の採取とシカ食害により激減している。

【形態】

水中や湿地に生える多年生草本。根出葉は心円形～腎円形、長さ幅ともに 3cm 程度、基部は深くへこみ、辺縁には低い鈍鋸歯がある。花茎は直立し、高さ 15cm 程度、上部に少数の茎葉をつける。花期は 5～7 月、がく片は黄色で通常 5 枚である。花茎が倒れて発根し、栄養的に繁殖することはない。

【分布の概要】

【県内の分布】

富山(芹沢 82911)。1カ所に小群落がある。

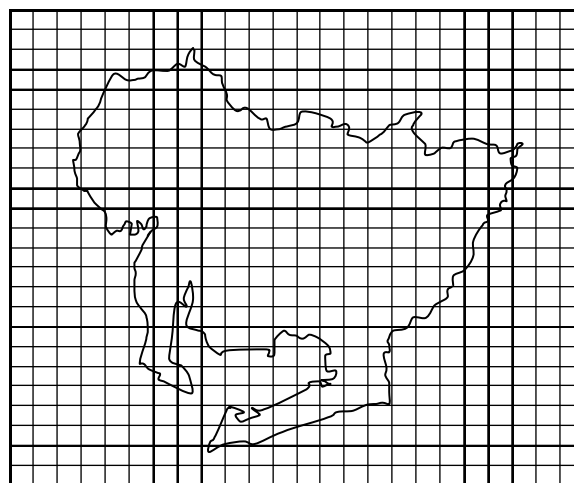
【国内の分布】

本州および九州に分布するリュウキンカの特長は茎葉が小さい一型であるが、正確な分布域ははっきりしない。

【世界の分布】

リュウキンカは、日本および朝鮮半島に分布する。種としては北半球の温帯に広く分布する。

要配慮地区図



【生育地の環境 / 生態的特性】

浅い水中に生育する。

	山地	丘陵	平野	海浜
森林				
草・岩				
湿地				
水域	○			

【現在の生育状況 / 減少の要因】

生育範囲は狭く、個体数ももともと多くない。園芸目的の採取により激減しているだけでなく、シカの食害が著しい。小林 (2006) は「食害は認められず」と記述しているが、2008 年 6 月に調査したときには被害甚大で、完全な状態の株はほとんど見られなくなっていた。

【保全上の留意点】

シカの食害を防止するため、緊急に保護柵を設置するべきである。その一方でこれ以上の採取やカメラマン、自称自然愛好家による攪乱を防止するため、分布情報の公表に際し慎重な配慮が必要である。

【特記事項】

典型的なリュウキンカは、愛知県では知られていない。日本産リュウキンカ類の分類については、今後詳細な検討が必要である。

【引用文献】

小林元男, 2006. 北設楽の植物 p.43. 愛知県林業試験研究推進協議会, 新城.

【関連文献】

平草 II p.58, SOS 旧版 p.49, SOS 新版 p.67,69.

タマカラマツ *Thalictrum watanabei* Yatabe

【選定理由】

個体数階級 4、集団数階級 4、生育環境階級 3、人為圧階級 3、固有度階級 3。地理的な分化が著しいミヤマカラマツ群の 1 種で、全国的に見ても希少であり、また愛知県は分布域の東限に近い。県内では生育地も個体数も極めて少なく、存続の基盤が脆弱である。

【形態】

多年生草本。高さ 20～30cm になる。根はところどころ球状または紡錘状に肥大する。根出葉は 1 個で、花期にも残り、2～3 回 3 出複葉、小葉は薄く、長さ 1～2cm、基部は切形～円形、裏面は灰白色である。茎葉は 2～3 個つき、根出葉に比べて小さい。花期は 6～8 月、花は散房状の花序につき、白色または淡紫色をおびる。がく片は 4～5 個、倒卵形で長さ 2.5mm、花期には脱落する。

【分布の概要】

【県内の分布】

設楽西部（芹沢 61444）。1 カ所に、ごく少数の個体が生育している。

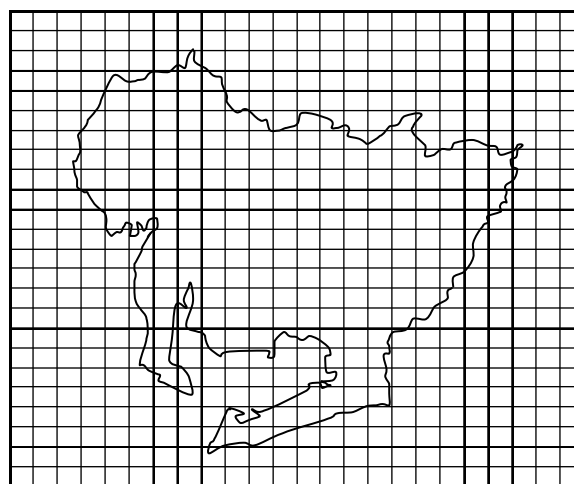
【国内の分布】

本州（東海地方、近畿地方）、四国、九州。

【世界の分布】

日本固有種。

要配慮地区図



【生育地の環境 / 生態的特性】

山地の岩上に生育する。

	山地	丘陵	平野	海浜
森林				
草・岩	○			
湿地				
水域				

【現在の生育状況 / 減少の要因】

ごく狭い範囲に数株が細々と生育しているにすぎない。当面開発が想定される場所ではないが、山草愛好家に見つかれば絶滅は必至である。

【保全上の留意点】

園芸目的の採取を防止するため、分布情報の公表に際し慎重な配慮が必要である。

【特記事項】

根にふくらみがあるためタマカラマツと名付けられたが、あまりよい名とは思えない。

【関連文献】

保草Ⅱp.239、平草Ⅱp.83、SOS 旧版 p.51+図版 2、環境庁 p.285。

オニバス *Euryale ferox* Salisb.

【選定理由】

個体数階級 4、集団数階級 4、生育環境階級 3、人為圧階級 3、固有度階級 2。全国的に減少傾向の著しい水生植物で、絶滅に瀕している水草の代表的な存在である。愛知県では、ほぼ絶滅状態である。

【形態】

1年生の水草。ときには2mを超えるような大きな水上葉をつける。水上葉にはしわがあり、裏面は紫色で、葉脈が網目状に高く隆起し、両面の脈上に鋭い刺がある。葉身は円形で、葉柄は盾状につく。花期は8~10月、花は直径4cm位で、長い花茎に頂生し、昼に開き、夜に閉じる。がく片は4枚、外側は緑色で刺があり、内側は紫色、花弁は多数ついて紫色、がく片より小さい。果実は卵円形、直径5cmくらいで、刺が多い。

【分布の概要】

【県内の分布】

大府東浦(飛山池、芹沢 70309, 1994-8-8)。田原赤羽根(芦ヶ池、恒川敏雄 649, 1949-10-2, TMNH)と名古屋北部(名城公園、井波一雄 s.n., 1967-9-14, CBM198530)で採集された標本もあるが、現地では絶滅した。海部西部(津島市)にあったという記録もある(大原, 1975)が、確実な標本は残されていない。濃尾平野の岐阜県、三重県側には、まだ多少の自生地が残されている。

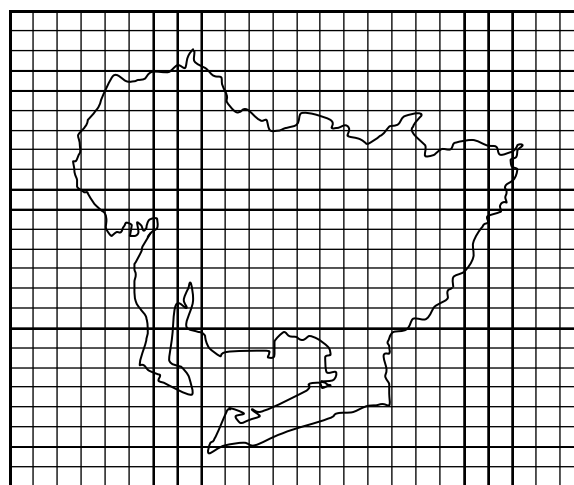
【国内の分布】

本州(宮城県以南)、四国、九州。

【世界の分布】

日本、台湾、中国大陸南部、インドなど。

要配慮地区図



【生育地の環境 / 生態的特性】

平野部の富栄養型の、しかし過栄養でない池沼に生育する。

	山地	丘陵	平野	海浜
森林				
草・岩				
湿地				
水域		○	○	

【現在の生育状況 / 減少の要因】

飛山池では2~3年続けて出現したが、その後は見られない。種子はおそらく池中に残存しており、適切な攪乱があれば再度出現するものと思われるので、絶滅とは判定せず絶滅危惧 I A類と評価した。芦ヶ池では、池の改修により見られなくなった。ため池の改修や埋め立て、人為的汚染による水質の過栄養化が減少の要因である。

【保全上の留意点】

種子に休眠性があるため、思わぬ所に突然出現することがある。継続的な生育のためには、ため池の適切な管理が必要だと思われる。

【特記事項】

とげだらけで、かつては駆除に苦労した水草であつたらしい。

【引用文献】

大原準之助, 1975. 植物新分布報告 第9報. 植物研究集録 (16): 83-86.

【関連文献】

保草Ⅱp.253、平草Ⅱp.95、SOS旧版p.51+図版20、環境庁p.453。

オグラコウホネ *Nuphar oguraense* Miki

【選定理由】

個体数階級 3、集団数階級 4、生育環境階級 3、人為圧階級 3、固有度階級 3。全国的に見ても希少な水草で、愛知県は分布域の東限にあたる。県内では生育地が極めて少なく、存続の基盤が脆弱である。

【形態】

多年生の水草。地下茎は太くて白く、水底の地中を横にはう。葉は束生し、長くて細く、中実の葉柄があり、水中葉の葉身は薄く、辺縁は波状になる。水上葉は水面に浮かび、卵形、長さ5～10cm、幅4～6cm、やや薄く、基部は矢じり形にへこみ、表面は無毛、裏面に毛がある。花期は7～10月、花柄は長く伸び、水上に出て、先端に1個の花をつける。花は黄色で直径3～4cm、がく片は通常5枚である。

【分布の概要】

【県内の分布】

新城（芹沢 78173）。1カ所に生育しているだけである。

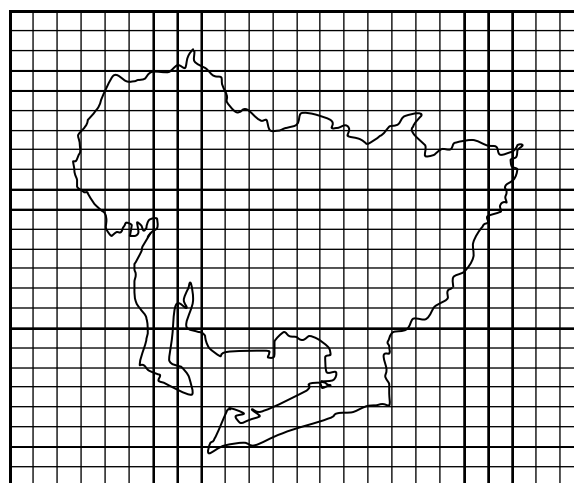
【国内の分布】

本州（愛知県以西）および九州。

【世界の分布】

日本固有種。

要配慮地区図



【生育地の環境 / 生態的特性】

浅い池沼や流れのゆるい水路に生育する。

	山地	丘陵	平野	海浜
森林				
草・岩				
湿地				
水域		○		

【現在の生育状況 / 減少の要因】

現在のところ生育状態は良好であるが、生育地が1カ所だけであるため、ため池の改修や埋め立てがあれば絶滅する。

【保全上の留意点】

生育地の現状を変えず、水質を保全することが必要である。マニアに採取されるおそれもあるので、分布情報の公表に際し慎重な配慮が必要である。

【特記事項】

和名は、最初の発見地である京都の巨椋池に因む。

【関連文献】

保草Ⅱp.253、平草Ⅱp.94、SOS旧版 p.52+図版 20、環境庁 p.454。

ナガバノイシモチソウ *Drosera indica* L. (図版 3)

【選定理由】

個体数階級 3、集団数階級 4、生育環境階級 4、人為圧階級 2、固有度階級 4。減少傾向の著しい食虫植物。また花が淡紅色の狭義のナガバノイシモチソウは、本地域に著しい隔離分布をする植物である。本地域を特徴づける湧水湿地性植物の一つであるが、減少傾向が著しい。

【形態】

食虫性の 1 年生草本。高さ 7~20cm になる。葉は互生し、狭線形、長さ 4~7cm、幅 1~2.5mm、先は細く糸状になり、表面に昆虫類を捕らえるための長腺毛が多い。若葉はぜんまい状に巻く。花期は 7~8 月、葉に対生して長さ 5~10cm の総状花序を出し、3~10 個の淡紅色の花をつける。花弁は 5 枚、長楕円形で長さ 6~8mm である。花の白いものは、シロバナナガバノイシモチソウとして区別し、次頁で記述する。シロバナナガバノイシモチソウを区別した場合、狭義のナガバノイシモチソウは国レベルでも絶滅危惧 I A 類になるはずである。

【分布の概要】

【県内の分布】

比較的最近では、豊橋北部（芹沢 53543）、豊橋南部（芹沢 53558）、豊明東郷（渡邊幹男 s.n.）の 3 区画で確認されている。ただし豊橋南部は、かつて自生していたことは確実であるが、最近確認されたものは播種起源の可能性が高い。豊明東郷については、現在の生育状況の項を参照されたい。名古屋北部（田代村、牧野富太郎 s.n., 採集日不明, TI）で採集された標本もある。

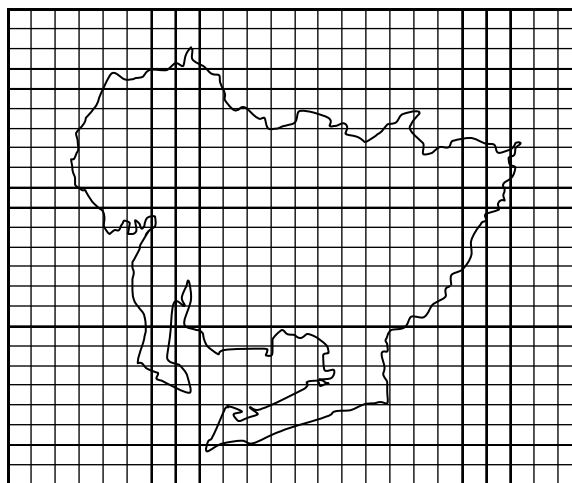
【国内の分布】

本州中部（愛知県、三重県）。

【世界の分布】

旧世界の熱帯に広く分布する。

要配慮地区図



【生育地の環境 / 生態的特性】

湧水湿地の、半裸地状の場所に生育する。

	山地	丘陵	平野	海浜
森林				
草・岩				
湿地		○		
水域				

【現在の生育状況 / 減少の要因】

本種の場合、以前は開発により次々と生育地が失われた。例えば名古屋市の滝ノ水湿地は宅地造成で破壊され、豊明市にあった大規模な生育地は養豚場ができて消滅した。しかし現在では、本種の重要性はそれなりに認識されており、むしろ過剰保護が懸念される状態になっている。豊明市に残存する自生地は県の天然記念物に指定されているが、水脈が切れて給水が必要なだけでなく、組織培養個体の植栽など極度の人為的管理のため本来の自然状態が失われるに至った。現在では遺伝子レベルでの分析に基づいて植込由来個体が除去され、その一方で埋土種子集団からの個体群復元も行われて、自然状態の回復が図られている。また、本種については一部の人間による自然湿地への播種があちこちで行われており、どこまでが真の自然分布かもよくわからなくなっている。このような付け加えは、その場所の本来の自然に悪影響を与え、自然環境情報に混乱をもたらすだけでなく、残存する個体群がある場合は遺伝的攪乱や病虫害をまねき、「最後のとどめ」になってしまうこともある。本来ないものは、「ない」のが自然の状態であることを認識する必要がある。

【保全上の留意点】

前項参照。どうしても野外で播種による系統保存を行う必要がある場合には、公的機関の手で、十分な事前調査と管理のもとに行うべきである。

【関連文献】

保草Ⅱp.167、平草Ⅱp.121、SOS 旧版 p.53+図版 19、環境庁 p.293。

シロバナナガバノイシモチソウ *Drosera* sp.

【選定理由】

個体数階級 3、集団数階級 4、生育環境階級 4、人為圧階級 2、固有度階級 3。減少傾向の著しい食虫植物。本地域を特徴づける湧水湿地性植物の一つであるが、減少傾向が著しい。

【形態】

食虫性の 1 年生草本。ナガバノイシモチソウに比べやや草丈が高く、花はやや小さくて白色である。一般に品種 *form. albiflora* Makino として区別される植物であるが、遺伝的にかなり分化していることが判明したので、ここでは別のものとして扱う。

【分布の概要】

【県内の分布】

半田武豊（芹沢 80852）。豊橋南部（芹沢 56671）と田原赤羽根（芹沢 53620）にも生育していたが、これらは人為的に播種されたものである可能性が高く、また田原赤羽根では現在は消滅している。渥美（伊良湖岬，恒川敏雄 s.n., 1957-8-20, TMNH）、安城（榎前町，岡田善敏 s.n., 1924-8-21）、大府東浦（大府，井波一雄 s.n., 1951-9-23, TNS）で採集された標本もある。

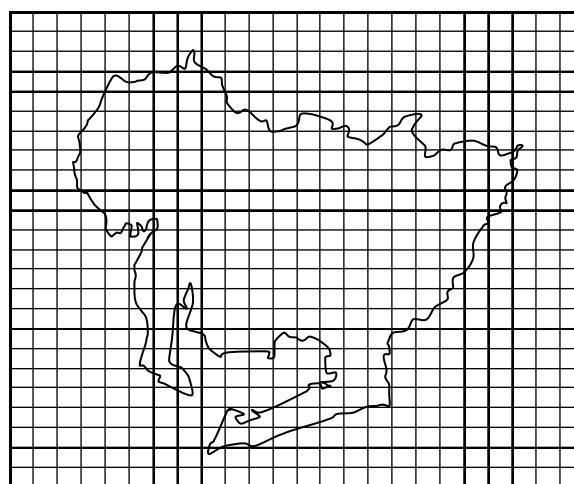
【国内の分布】

本州（関東地方、東海地方）、九州。

【世界の分布】

詳細不明。

要配慮地区図



【生育地の環境 / 生態的特性】

湧水湿地の、半裸地状の場所に生育する。「ため池の岸にある」という話を聞いたこともあるが、教えてもらった場所では確認できなかった。

	山地	丘陵	平野	海浜
森林				
草・岩				
湿地		○		
水域				

【現在の生育状況 / 減少の要因】

渥美半島の自生地はいずれも危機的な状態である。生育している湿地の破壊（直接的な破壊だけでなく、水源部の破壊を含む）と遷移の進行が、減少・絶滅の主要因である。半田武豊の自生地（武豊町壺町田湿地）は県の天然記念物 / 自然環境保全地域として保全が図られているが、水源となる台地が宅地化されたため湧水が枯渇し、給水が必要な状態に追い込まれている。また個体数を維持するため人為的な播種が行われているらしく、集団の遺伝的多様性も低下している。

【保全上の留意点】

埋土種子集団を作る植物なので、表土を攪乱すれば埋土種子が発芽し、遺伝的に多様な集団が復元すると思われる。しかし壺町田湿地の場合は、そのような行為は一方で同所に生育する他の植物（ヒメミミカキグサなど）に深刻な影響を与える可能性があり、慎重な配慮が必要である。

【関連文献】

保草Ⅱp.167、平草Ⅱp.121、環境庁 p.293、SOS 新版 p.106,108（ナガバノイシモチソウとして）。

ヒロハノカワラサイコ *Potentilla nipponica* Th.Wolf

【選定理由】

個体数階級 4、集団数階級 4、生育環境階級 4、人為圧階級 3、固有度階級 3。減少傾向の著しい草地性の植物で、愛知県は分布のほぼ南限にあたる。

【形態】

多年生草本。茎は2～5本が束生して斜上し、白毛があり、長さ20～35cmになる。葉は互生し、奇数羽状複葉、小葉は7～13個で楕円形、長さ1～2.5cm、羽状に中裂し、裂片は鋭～鈍頭、裏面は綿毛があって白色になる。小葉の間に小さい葉片がつくこともある。花期は5～7月、茎の先に分岐した花序をつけ、直径15～18mmの黄色の花を咲かせる。がく片は5枚で狭卵形、長さ約5mm、副がく片も5枚でやや小さく、背面に白い綿毛が多い。花弁は5枚で広倒卵形、先端はへこむ。

【分布の概要】

【県内の分布】

常滑（芹沢 77370）。1カ所にごく少数の個体が生育している。ただし、ごく最近の状況は確認されていない。豊橋南部（大崎，川敏雄 s.n., 1950-6-17, HNSM）で採集された標本もある。

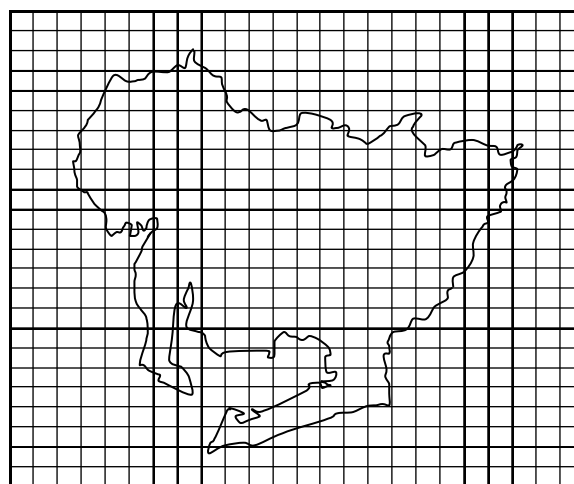
【国内の分布】

北海道および本州（中部地方以北）に分布する。

【世界の分布】

日本固有種。

要配慮地区図



【生育地の環境 / 生態的特性】

日当たりのよい草地や砂礫地に生育する。

	山地	丘陵	平野	海浜
森林				
草・岩		○		
湿地				
水域				

【現在の生育状況 / 減少の要因】

愛知用水に沿った草地に、僅かに生育している。用水の改修がこの場所に及んでいれば、すでに絶滅した可能性もある。

【保全上の留意点】

草地の保全が必要である。特に愛知用水などの幹線水路わきの草地は、定期的に草刈りが行われるため遷移が進行せず、多くの草地性植物の逃避場所になっている。改修工事に際しては、これらの植物の最後の「頼みの綱」を断ち切らないよう、十分な配慮が必要である。

【特記事項】

カワラサイコと異なり、通常河川敷には見られない。

【関連文献】

保草本Ⅱ p.134、平草本Ⅱ p.180、SOS 旧版 p.58、SOS 新版 p.87,89。

マメナシ *Pyrus calleryana* Decne.

【選定理由】

個体数階級 2、集団数階級 2、生育環境階級 4、人為圧階級 3、固有度階級 4。著しい隔離分布種で、日本では本地域だけに生育する。分布の中心が名古屋市内やその近郊の丘陵地で開発圧力が極めて強いため、総点は 15 であるが CR と評価する。

【形態】

落葉性の小高木。よく分枝し、高さ 8~10m になる。樹皮は灰紫黒色で、縦に割れ目が入る。葉は長枝に互生するか短枝にほとんど束生し、広卵形、卵形または卵状長楕円形、先端は鋭頭~尖鋭頭、基部はふつう円形、長さ 4~9cm、幅 3~6cm、辺縁に細かい鈍鋸歯があり、はじめ白色の軟毛があるが、後に無毛となる。花期は 4 月、花は白色で直径約 2.5cm、花弁は 5 枚、花柱は 2~3 個である。果実はほぼ球形、直径約 1cm、黄褐色で円形の小さい皮目が多数ある。

【分布の概要】

【県内の分布】

瀬戸尾張旭 (日比野修 5492)、日進長久手 (半田多美子 2534)、東海知多 (芹沢 74321)、犬山 (芹沢 69242)、小牧 (日比野修 5092)、春日井 (山田果与乃 664)、名古屋北部 (鳥居ちよ子 253)、名古屋南東部 (花岡 昭 126)。現存個体数の相当部分は、名古屋市内にある。西尾市からの報告もある (大原, 1971) が、標本等は未確認である。

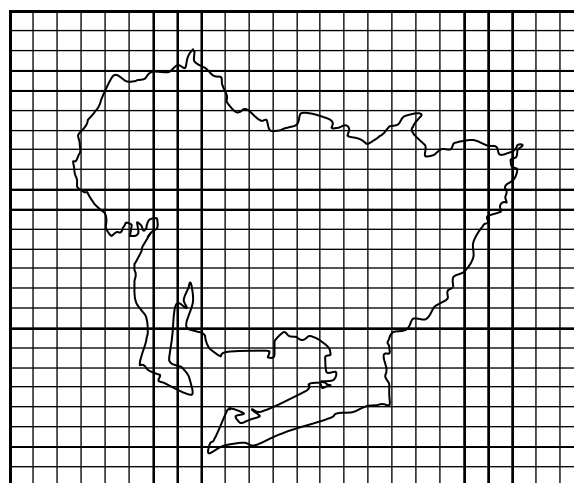
【国内の分布】

本州 (愛知県、三重県) に分布する。三重県四日市市の自生地は、国指定の天然記念物とされている。長野県からの報告は誤りである (池谷, 2003)。

【世界の分布】

日本、朝鮮半島中部、中国大陸中南部、ベトナム北部。

要配慮地区図



【生育地の環境 / 生態的特性】

ため池周辺などの湧水のある場所に生育する。

	山地	丘陵	平野	海浜
森林				
草・岩				
湿地		○		
水域				

【現在の生育状況 / 減少の要因】

最近でもいくつかの自生地は、宅地造成等により失われている。とげの多い木であるため、邪魔者扱いで伐採されることもある。名古屋南東部では、以前は多かったが、現在はわずかに残るのみである。その一方で、最大の自生地であった守山区の蛭池では、公園化により自然環境が破壊され、現存する個体は保護されても、繁殖できる状況は失われている。

【保全上の留意点】

本種は、愛知県を特徴づける植物の中でもナガボナツハゼと共に最も危機的で、体系的な保護対策が必要である。

【特記事項】

彩色画はレッドデータブックあいち 2001 植物編 図版 2 及びレッドデータブックなごや 2004 植物編 図版 1 に掲載されている。本種とナシの雑種であるアイナシは、瀬戸尾張旭、小牧などに稀に生育している。

【引用文献】

大原準之助. 1971. 愛知県国有林の植物誌 p.71. 名古屋営林局, 名古屋.
池谷祐幸. 2003. マメナシは長野県には分布しない. 植物研究雑誌 78: 177-178.

【関連文献】

保木本 II p.46、平木本 I p.227、SOS 旧版 p.58+図版 15、環境庁 p.122、SOS 新版 p.102,104.

イワシモツケ *Spiraea nipponica* Maxim.

【選定理由】

個体数階級 4、集団数階級 4、生育環境階級 4、人為圧階級 2、固有度階級 2。愛知県の代表的な石灰岩地性植物。県内の生育地は 1 カ所だけであり、個体数も少なく、存続の基盤が脆弱である。

【形態】

落葉性の低木。よく分枝し、高さ 1~2m になる。葉は多形で、狭長楕円形、倒卵形、倒卵円形、広楕円形、楕円形などのものがあり、先端は円頭または鈍頭、長さ 1~4.5cm、辺縁は全縁または先端部に 2~3 個の鈍鋸歯があり、裏面は粉白色または淡色である。花期は 5~6 月、今年枝の先端の散房~複散房花序に、10~20 個の白色の花をつける。花は直径 6~7mm、花弁は 5 枚である。

【分布の概要】

【県内の分布】

豊橋北部（石巻山、芹沢 51921）。ごく狭い範囲に小群落がある。

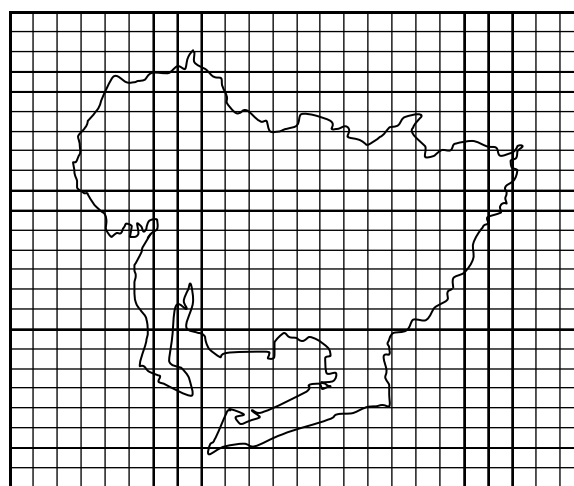
【国内の分布】

本州（近畿地方以東）の山地の岩場に生育する。

【世界の分布】

日本固有種。

要配慮地区図



【生育地の環境 / 生態的特性】

山地の岩上に生育する。しばしば石灰岩地や蛇紋岩地に見られ、愛知県の生育地も石灰岩地である。

	山地	丘陵	平野	海浜
森林				
草・岩	○			
湿地				
水域				

【現在の生育状況 / 減少の要因】

自生地は国指定天然記念物として保護されているが、近年の夏の高温乾燥により衰弱傾向が著しい。また、現地は訪れる人が多く、道近くのものによく枝を折られている。岩登りなどの際に折られることもある。生育範囲が狭く個体数も少ないので、注意が必要である。

【保全上の留意点】

遊歩道整備等の際には、特に注意が必要である。ロッククライミング等の岩場利用に際しても十分な配慮が必要である。

【特記事項】

西日本では、トサシモツケ var. *tosaensis* (Yatabe) Makino、キイシモツケ var. *ogawae* (Nakai) Yamanaka などの固有変種が知られている。

【関連文献】

保木本Ⅱ p.93、平木本Ⅰ p.184、SOS 旧版 p.59+図版 8、SOS 新版 p.50,52。

マツバニンジン *Linum stelleroides* Planch.

【選定理由】

個体数階級 4、集団数階級 4、生育環境階級 4、人為圧階級 2、固有度階級 2。減少傾向の著しい草性植物で、愛知県では生育地も個体数も極めて少ない。

【形態】

1 年生草本。茎は直立し、上部で分枝し、高さ 40~60cm になる。葉は互生し、無柄、葉身は狭長楕円形、長さ 1~3cm、幅 2~4mm、先端はとがり、基部はしだいに細まり、無毛で 3 脈がある。花期は 8~9 月、茎や枝の先端の集散花序に、直径約 1cm の淡紫色の花をつける。花弁は 5 枚、広倒卵形、長さ 5~6mm、果実は球形で直径 3~4mm である。

【分布の概要】

【県内の分布】

新城（芹沢 57370）、豊橋北部（芹沢 64166）。各 1 カ所自生地があるが、個体数は少ない。鳳来南部（黄柳野、鳥居喜一 3603, 1970-9-6, HNSM）で採集された標本もある。

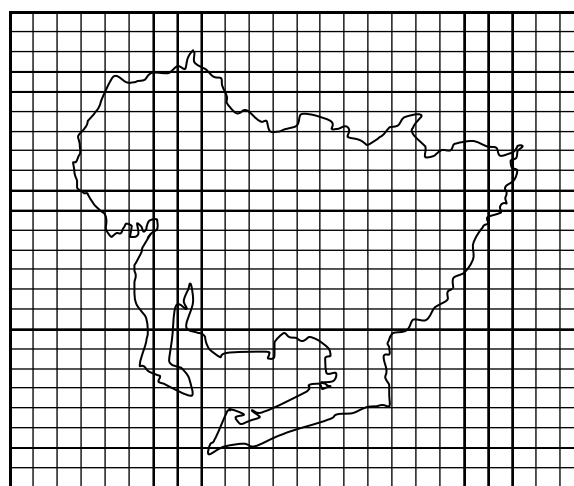
【国内の分布】

北海道、本州、四国、九州。

【世界の分布】

日本、朝鮮半島、中国大陸、シベリア東部など。

要配慮地区図



【生育地の環境 / 生態的特性】

山地の日当たりのよい草地に生育する。愛知県での自生地は超塩基性岩地である。

	山地	丘陵	平野	海浜
森林				
草・岩	○			
湿地				
水域				

【現在の生育状況 / 減少の要因】

個体数は少なく、年による消長もある。自生地は草刈りがされなくなって徐々に森林化が進行しており、将来は楽観できない。

【保全上の留意点】

地域共同の採草地として利用されてきた山地の草地（カヤ場）は、利用の停止によって森林化が進み、全国的にも愛知県でもほとんど壊滅状態である。愛知県の場合超塩基性岩地は比較的状况がよいが、それでも徐々に森林化が進行している。稜線の草地は、防火帯としても眺望を楽しむという点でも重要であり、草刈りや火入れによって維持していく必要がある。園芸目的の採取やカメラマン、観察者による攪乱を防止するため、分布情報の公表に際しては慎重な配慮が必要である。

【特記事項】

環境庁の 2000 年版レッドデータブックでは評価もれとなっていた植物である。実際に評価してみると、全国的にも極めて危機的である。

【関連文献】

保草本Ⅱp.84、平草本Ⅱp.223、SOS 旧版 p.62+図版 13。

ハギクソウ *Euphorbia esula* L. var. *nakaii* (Hurusawa)Hurusawa（図版 1）

【選定理由】

個体数階級 3、集団数階級 4、生育環境階級 4、人為圧階級 3、固有度階級 4。全国的にも、また愛知県でも分布域の限られた希少な植物で、愛知県は国内で本種が確実に観察できる唯一の場所と思われる。

【形態】

多年生草本。茎は少数が叢生し、直立して時に分枝し、高さ 35～45cm になる。葉は多数密に互生し、倒披針形～狭いへら形、長さ 4～7cm、幅 5mm 前後、辺縁は全縁である。茎の先端には 5 枚の葉が輪生し、葉腋から散形枝を出し、各枝に杯状花序を頂生して、分枝を繰り返す。花期は 4～5 月、杯状花序の腺体は半月形、苞葉は黄色で菱状卵形～腎形である。果実の表面にはこぶ状の小突起が密生する。

【分布の概要】

【県内の分布】

渥美（芹沢 82796）。限られた範囲に生育しているだけである。御津（井波和大 s.n., 1935-5-11, TNS）で採集された標本もある。

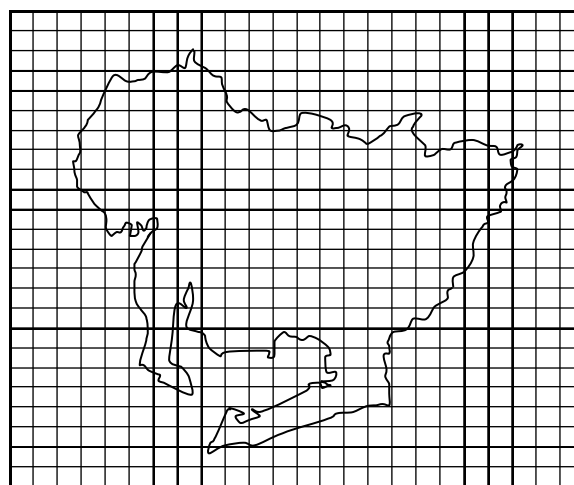
【国内の分布】

本州（東海地方）および九州の海岸部に生育するが、九州での最近の状況ははっきりしない。

【世界の分布】

日本および朝鮮半島。種としてはヨーロッパから東アジアにかけて広く分布することになっているが、詳細な検討が必要である。

要配慮地区図



【生育地の環境 / 生態的特性】

海岸の砂地に生育する。

	山地	丘陵	平野	海浜
森林				
草・岩				○
湿地				
水域				

【現在の生育状況 / 減少の要因】

観光開発や砂防工事、道路建設等による生育地の直接的な破壊、あるいは砂防のため造林されたクロマツの生長に伴う砂丘の消失によって、本種が生育できる環境は極めて少なくなっている。比較的近年でも、防波ブロックを製造するため、不用意に自生地を破壊した例があった。西ノ浜では、風力発電所建設とそれに関連する工事によって生育地の一つが破壊された。現在残された生育地は、特に注意深く保全していく必要がある。

【保全上の留意点】

土木工事等に際しては、特に注意を要する植物である。砂丘のような自然環境は、近傍に住む人に不利益をもたらすため、行政としては今までなるべく消失させるよう努力してきた。しかし、その努力は、一方でそのような環境に住んでいる生物の生活の場を奪い、生物多様性の減少を招いている。住民の利益と生物多様性の保全をどう調和させるかは、今後の重要な課題である。園芸目的で採取されるおそれがあるため、分布情報の公表に際しては慎重な配慮が必要である。

【特記事項】

和名は、花後茎の先端に葉が密につき、キクの花に似た状態になるからである。

【関連文献】

保草本Ⅱp.79、平草本Ⅱp.227、SOS 旧版 p.62+図版 30、環境庁 p.308、SOS 新版 p.151,152。

ハナノキ *Acer pycnanthum* K.Koch

【選定理由】

個体数階級 3、集団数階級 3、生育環境階級 4、人為圧階級 2、固有度階級 4。本地域を代表する湧水湿地性の固有種で、鑑賞価値も高い。県内では生育地も個体数も少なく、まとまった集団は 1カ所だけである。

【形態】

落葉性の高木。高さ 30m、直径 1.5m に達する。葉は対生し、長さ 3~8cm の柄がある。葉身は広卵形、老木の葉は切れ込まないが若木の葉は 3 裂し、長さ 4~8cm、幅 3~10cm、先端は鋭尖頭、基部は浅心形から広くさび形、掌状の 3 脈があり、辺縁には重鋸歯があり、裏面は粉白色をおびる。花期は 4 月、花序は束状で若枝の葉腋につき、雌雄異株、花は葉が展開する前に咲き、一つの花序に 3~6 個つき、暗紅色である。果実は 2 つの分果に分かれ、それぞれの分果は長さ約 2.5cm、翼は直角ないし鋭角に開き、柄は長さ 6~7cm に伸びる。

【分布の概要】

【県内の分布】

豊根（芹沢 49220）、作手（芹沢 48476）、下山（小林 57163）、小原（日比野修 2632）。瀬戸尾張旭（写真は「植物からの SOS」=SOS 旧版 図版 17）にもあるが、枝が高く良好な標本を採取できない。愛知県の木に指定されているが、県内では自生のは少ない。分布の中心は岐阜県東濃地方である。

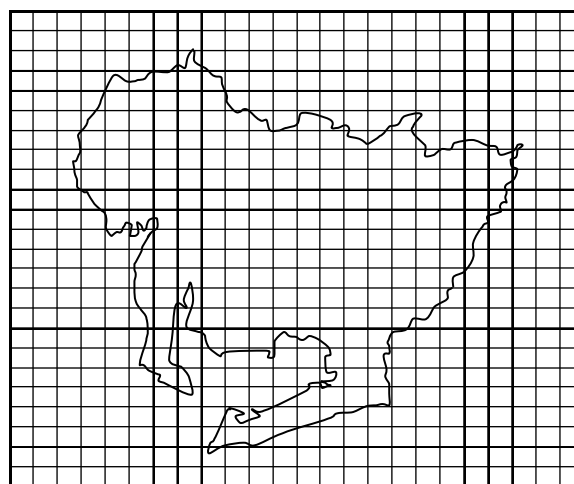
【国内の分布】

本州中部。長野・岐阜・愛知三県の県境付近に自生し、長野県大町市に隔離分布している。

【世界の分布】

日本固有種。近縁種が北アメリカ東部にある。

要配慮地区図



【生育地の環境 / 生態的特性】

沢の源頭部などの湧水がある場所に生育する。点在することが多いが、小群落を作ることもある。

	山地	丘陵	平野	海浜
森林				
草・岩				
湿地	○			
水域				

【現在の生育状況 / 減少の要因】

豊根の自生地は十数個体の成木がまとまって生育しており、国の天然記念物に指定されているが、観光開発により林床が攪乱され、本来の自然の状態が失われて、次世代の若木は育たない状況になっている。その一方で周辺に由来のはっきりしない若木が多数植栽されているので、現在ある成木が枯死すれば、自然集団としては絶滅の運命にある。瀬戸尾張旭は 3 個体、作手、下山、小原は、それぞれ伐採後に萌芽した 1 個体があるだけである。

【保全上の留意点】

本種は県の木としてあちこちに植栽されており、そのため分布情報の混乱が懸念される。自然環境下に植栽することは、原則として避けるべきである。どうしても植栽する必要がある場合は、どの自生地から採取した種子を、どこでどのように発芽させたものであるか明確にし、できれば遺伝的な調査も行い、記録を将来も散失しないような方法でしっかり残すべきである。

【特記事項】

本種は長命な樹木なので、10 年後に絶滅する可能性はない。しかし IUCN 基準に示された 3 世代という期間で見れば、絶滅危惧ⅠA類という評価は妥当であろう。豊根村のハナノキには「ふれるとたたきがある」という忌避伝承があり（伊藤, 2008）、それが自生地の保全に役立っていたらいい。

【引用文献】

伊藤正英, 2008, ハナノキのフォークロア. 伊那民俗 (72): 2-4.

【関連文献】

保木本Ⅰ p.288、平木本Ⅱ p.8、SOS 旧版 p.63+図版 17、環境庁 p.484、SOS 新版 p.66,68.

キスミレ *Viola orientalis* (Maxim.)W.Becker

【選定理由】

個体数階級 3、集団数階級 4、生育環境階級 4、人為圧階級 3、固有度階級 2。減少傾向が著しい大陸系の草地性植物で、愛知県は静岡県高草山に次ぐ分布の東限である。県内では生育地、個体数ともに極めて少ない。

【形態】

多年生草本。茎は直立し、高さ 10～15cm になる。葉は根生するか茎の上部に接近して互生し、根生葉には長い柄があり、茎葉は柄が短く、葉身は心形、長さ 2.5～4cm、幅 1～3cm、先は短く鋭尖頭、辺縁には波状の鋸歯があり、表面には通常細毛がある。花期は 4～5 月、花柄は茎上の葉の葉腋から出て長さ 2～4cm、花は黄色、花弁は 5 枚で長さ 12～15mm、側弁に毛があり、唇弁と側弁の外側に褐色条がある。距は極めて短い。

【分布の概要】

【県内の分布】

豊橋北部（芹沢 60960）。作手（高里城山，鳥居喜一 4482, 1957-6-30, HNSM）と蒲郡（御堂山，井波一雄 s.n., 1963-4, CBM 72359）で採集された標本もある。幡豆（洲崎山）にあったという報告もある（牧・岡田, 1976）が、現地では確認できず、確実な資料も残されていない。

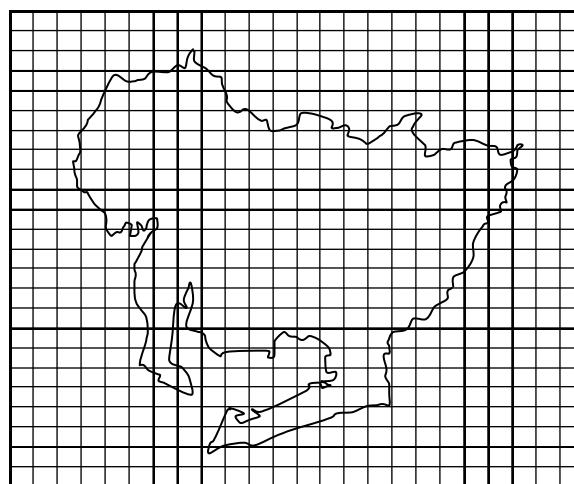
【国内の分布】

本州（東海地方以西）、四国、九州中北部に点在する。

【世界の分布】

日本、朝鮮半島、中国大陸（山東半島・東北部）、ウスリー。

要配慮地区図



【生育地の環境 / 生態的特性】

山野の日当たりのよい草地に生育する。

	山地	丘陵	平野	海浜
森林				
草・岩	○			
湿地				
水域				

【現在の生育状況 / 減少の要因】

豊橋の自生地では、かつては山が黄色になるくらいあったと言うが、最近では個体数も少なく、低木やササ類に覆われて絶滅寸前であった。刈り取りを行った結果ある程度回復したが、このようにすると今度は花が目立ち、園芸目的で採取される心配がある。

【保全上の留意点】

草地環境の維持が必要であるが、それと園芸目的の採取の防止はなかなか両立しない。よく知られている場所ではあるが、それでもこれ以上の採取とカメラマンや観察者の踏み荒らしを防止するため、分布情報の公表に際して慎重な配慮が必要である。

【特記事項】

黄花のスミレとしては、暖帯域に生育する唯一の種類である。

【引用文献】

牧 正吾・岡田 速, 1976. 幡豆町の自然 地質・植物編, 幡豆町. 47pp.

【関連文献】

保草本Ⅱ p.53、平草本Ⅱ p.252、SOS 旧版 p.65+図版 12、環境庁 p.490、SOS 新版 p.58,60。

キソガワシシウド *Angelica* sp.

【選定理由】

個体数階級 3、集団数階級 3、生育環境階級 4、人為圧階級 2、固有度階級 4。おそらく本地域に固有の、未記載の植物である。愛知県では生育地も個体数も少ない。

【形態】

多年生草本。茎は直立して高さ 2~3m になり、上部で枝を分ける。葉は互生し、下部の葉には長い柄があり、葉身は 3~4 回羽状複葉、小葉は卵形~楕円形、大きいものは長さ 25cm くらいになり、先端は鋭尖頭、先端部の小葉の基部は葉軸に流れ、辺縁には細かい鋸歯があり、裏面はやや淡色、無毛またはわずかに毛がある。茎の上部につく葉の葉柄は著しく袋状にふくらむ。花期は 5~6 月、花序は大形の複散形で枝の先端につき、花序の枝は 40~60 本、長さ 5~15cm、花は小さく、白色である。果実は楕円形で、広い翼がある。

【分布の概要】

【県内の分布】

尾西（渡辺幸子 2665）、海部西部（芹沢 74607）。木曾川と長良川の河川敷に生育する。

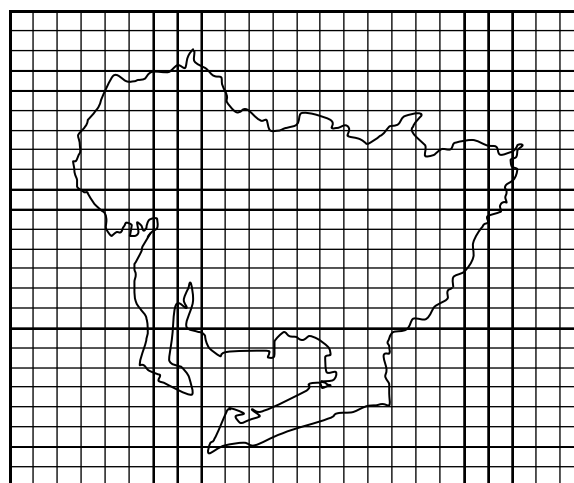
【国内の分布】

本州中部（木曾三川下流部）。

【世界の分布】

おそらく日本固有である。

要配慮地区図



【生育地の環境 / 生態的特性】

河川敷のヤナギ林の林縁に生育する。林内や堤防の草地にもみられる。

	山地	丘陵	平野	海浜
森林				
草・岩				
湿地			○	
水域				

【現在の生育状況 / 減少の要因】

点在するが、個体数は多くない。本来はもっと多かったと思われるが、低水護岸の建設や河川敷の開発によって減少し、現在に至っているのであろう。立田村福原の長良川河川敷には比較的多かったが、河口堰運用に伴う水位の上昇でかなり減少した。

【保全上の留意点】

河川敷のヤナギ林の保全が必要である。また、河口部の自然の中では潮の干満に伴う水位の変動が大きき要素になっており、保全策を検討する際にはこの点の検討を欠いてはならない。

【特記事項】

和名は、レッドデータブックあいち 2001 植物編で新称されたものである。シシウドに似ているが、初夏に咲き、葉裏はほとんど無毛である。果実の油管は、シシウドのものに似ている。写真は「自然からの SOS」（SOS 新版）に掲載されている。

【関連文献】

SOS 新版 p.203,205。

エキサイゼリ *Apodicarpum ikenoi* Makino

【選定理由】

個体数階級 2、集団数階級 4、生育環境階級 4、人為圧階級 3、固有度階級 4。関東地方と愛知県の固有種で、減少傾向の著しい低湿地性植物でもある。県内では生育地が極めて少なく、開発圧力も高い。

【形態】

小形の多年生草本。根は数個が肥厚する。茎は下部から枝を分け、高さ 30cm 内外になる。葉は互生し、長さ 4~10cm の柄があり、葉身は単羽状複葉、小葉は 2~4 対で長卵形~卵形、長さ 1~3cm、幅 0.5~1.5cm、先端は鋭頭~鈍頭、無柄で辺縁には欠刻状の鋸歯がある。花期は 5 月、花序は複散形で枝の先端につき、花序の枝は 4~8 本、花時には長さ 1cm 以下であるが果時には 1~3cm にのび、花は小さく、白色である。果実は楕円形で長さ 2~3mm、分果は無柄である。

【分布の概要】

【県内の分布】

岩倉西春（芹沢 77359）、海部東部（芹沢 82886）。五条川下流部だけに知られており、区画としては 2 区画だが、実質的には 1 カ所である。

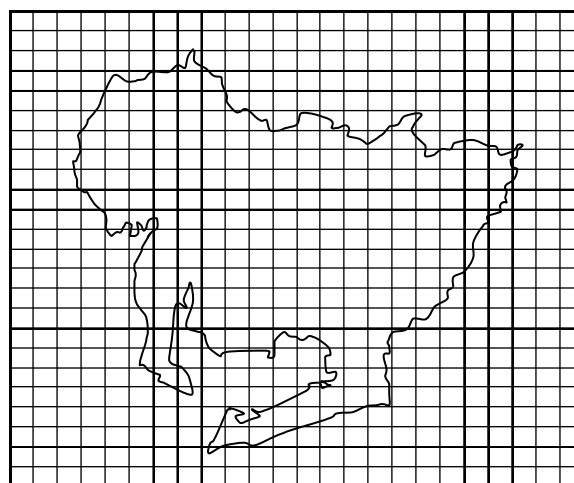
【国内の分布】

本州（関東地方および愛知県）。関東地方では、利根川水系にはまだ点在しているが、東京都や神奈川県ではすでに絶滅した。

【世界の分布】

日本固有種。

要配慮地区図



【生育地の環境 / 生態的特性】

河川敷低湿地のヨシ群落の中やその周辺に生育する。

	山地	丘陵	平野	海浜
森林				
草・岩				
湿地			○	
水域				

【現在の生育状況 / 減少の要因】

部分的には個体数の多い場所もあり、また高さ 50cm を越す大型の個体も見られるが、生育地は新川との合流点から上流に向かって約 1.5km の範囲に限られており、存続の基盤は極めて脆弱である。最下流部の集団は、清掃工場の建設とそれに関連する河川改修により消滅した。ただし、現在進行中の河川改修工事では最大限の配慮がされている。

【保全上の留意点】

目立たない植物であるが、愛知県の低湿地性植物の中で最も危機的で、また最も保全を要する種である。埋土種子集団を作る植物らしいので、生育環境を維持または創出すれば、個体群は存続すると思われる。

【特記事項】

日本固有の 1 属 1 種の植物である。和名は、本種を最初に描画した富山藩主・前田利保の号「益齋」に因む。

【関連文献】

保草本Ⅱp.14、平草本Ⅱp.287、SOS 旧版 p.66+図版 27、環境庁 p.318、SOS 新版 p.166。

ナガボナツハゼ *Vaccinium sieboldii* Miq.

【選定理由】

個体数階級 3、集団数階級 3、生育環境階級 4、人為圧階級 3、固有度階級 4。湖西丘陵南部から渥美半島にかけての狭い範囲だけに分布する固有種で、マメナシと共に本地域の固有種の中では最も危機的な状況にあり、しかも危機的な状況にあることが十分認識されていない種である。

【形態】

落葉性の低木。よく分枝し、高さ 30~150cm になる。葉は互生し、短い柄があり、葉身は楕円形~卵状楕円形で、長さ 3~7cm、幅 2~4cm、先端は鋭頭、辺縁は全縁で鋸歯はなく、表面の主脈上に毛が散生するほかは無毛である。花期は 5 月、若枝の先に長さ 5~10cm の総状花序を伸ばし、多数の下向きの花をつける。花冠は鐘形で先は浅く 5 裂し、長さ約 5mm、白色で 5 本の赤色の縦条がある。果実は球形で黒熟し、直径 5~6mm である。

【分布の概要】

【県内の分布】

豊橋北部(芹沢 65616)、田原赤羽根(小林 51577)、渥美(芹沢 73548)。新城(富岡, 加藤等次 s.n., 1961-5-28)、豊橋南部(大清水町, 小林 16494, 1977-5-7)で採集された標本もある。

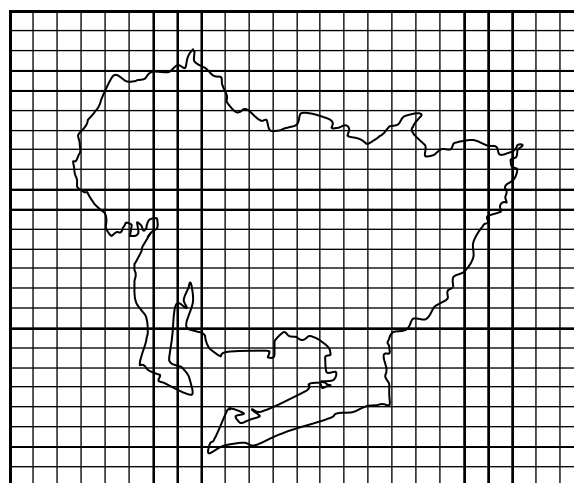
【国内の分布】

本州中部地方南部(静岡県西部、愛知県東部)。

【世界の分布】

日本固有種。

要配慮地区図



【生育地の環境 / 生態的特性】

やせた低山地の疎林の林縁などに生育している。「湿地に生える」と記述されている文献も少なくないが、湿地性の植物ではない。

	山地	丘陵	平野	海浜
森林				
草・岩	○			
湿地				
水域				

【現在の生育状況 / 減少の要因】

かつてはいくらでもあった植物らしいが、現在では多少なりともまとまった数が生育しているのは 2 カ所だけである。そのうち 1 カ所は、近年防火帯として伐開された場所である。よほど被陰に弱い植物らしく、かなりの疎林であっても林内にはほとんど見られない。森林化の進行に伴う光条件の悪化が、衰退の主要因と思われる。ナツハゼとの雑種と思われる個体も少なくないが、詳細な解析はまだ行われていない。

【保全上の留意点】

樹木を伐採して疎林・半裸地状態を維持することが急務である。生育地のほとんどがチャートの岩山か超塩基性岩地なので、一度伐採すれば、効果はある程度持続するものと思われる。

【特記事項】

西日本の日本海側に分布するアラゲナツハゼ *V. ciliatum* Thunb. に近縁である。

【関連文献】

保木本 I p.120、平木本 II p.152、SOS 旧版 p.69+図版 11、環境庁 p.503、SOS 新版 p.59,61。

ノジトラノオ *Lysimachia barystachys* Bunge

【選定理由】

個体数階級 3、集団数階級 4、生育環境階級 4、人為圧階級 3、固有度階級 2。全国的に希少な植物で、本州中部と九州に隔離的に分布しており、愛知県は本州の中では分布域の西限にあたる。県内では生育地も個体数も極めて少なく、しかも人為的影響を受けやすい場所に生育している。

【形態】

多年生草本。横にはう地下茎がある。地上茎は高さ 70~100cm、ふつう分枝せず、短い毛がやや密に生える。葉は互生し、葉身は倒披針形~線状楕円形、長さ 6~10cm、幅 8~15mm、先端は鈍頭~鋭頭、基部は狭まってほとんど無柄、辺縁は全縁である。花期は 6~7 月、茎の先端に上部が傾いた総状花序を伸ばし、上側に多数の花をつける。花は長さ 4~7mm の柄があり、花冠は白色で 5 裂し、直径 8~10mm、裂片は狭楕円形である。

【分布の概要】

【県内の分布】

豊橋北部（芹沢 81661）、瀬戸尾張旭（芹沢 79845）。2 区画の各 1 カ所に生育している。安城（東端町、芹沢 76843, 2000-7-3）にも生育していたが、ヌマトラノオとの雑種に圧迫されたらしく、2007 年には現存が確認できなかった。

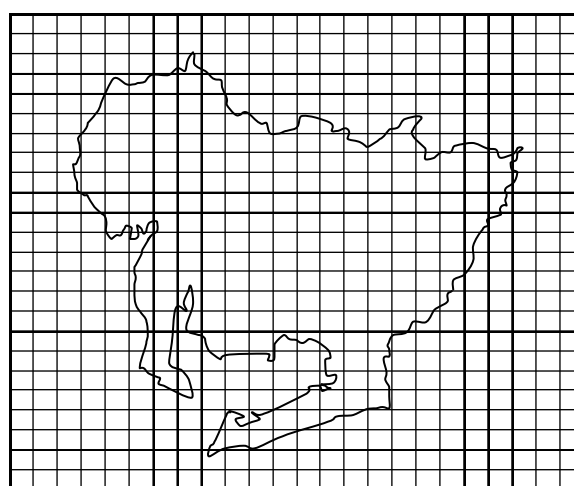
【国内の分布】

本州（東北地方南部から中部地方まで）、九州。

【世界の分布】

日本、朝鮮半島、中国大陸北部。

要配慮地区図



【生育地の環境 / 生態的特性】

日当たりのよいやや湿った草地に生育する。愛知県の生育地は、いずれも河川や水路のわきの土手である。

	山地	丘陵	平野	海浜
森林				
草・岩		○	○	
湿地				
水域				

【現在の生育状況 / 減少の要因】

豊橋北部は小群落が 3 つ、瀬戸尾張旭はやや大きい群落が 1 つあるだけで、土手の改修があれば容易に消滅する。また瀬戸尾張旭は隣接して駐車場があり、その拡張や除草剤の散布によって失われる可能性がある。

【保全上の留意点】

現在ほどの生育地も、河川や水路の管理上の必要から定期的な草刈りが行われているが、これがなくなればススキなどの大型草本に覆われて消滅する可能性が高い。生育地の地形を現状のまま保全すると共に、草刈りを続け、草地状態を維持する必要がある。

【特記事項】

オカトラノオ *L. clethroides* Duby に似ているが、葉が細い。関東地方のものと愛知県のものは苞葉の長さや茎の毛の量などが異なっており、詳細な検討が必要である。彩色画はレッドデータブックあいち 2001 植物編 図版 6 に掲載されている。

【関連文献】

平草本Ⅲp.19、環境庁 p.324、SOS 新版 p.198,206。

ヒメナエ *Mitrasacme indica* Wight

【選定理由】

個体数階級 4、集団数階級 4、生育環境階級 4、人為圧階級 2、固有度階級 2。全国的に減少傾向の著しい小型の湿地性植物で、愛知県では1カ所で少数個体が確認されているだけである。

【形態】

小型の1年生草本。茎は軟弱で無毛、高さ5~10cmになる。葉は茎全体にまばらにつき、対生で無柄、葉身は披針形~線形、長さ3~8mm、幅1~2mm、先端はとがり、全縁で1脈がある。花期は8~9月、花は茎の上部の葉腋に1個ずつつき、長さ1cm程度の柄があり、がくは鐘形で4裂、花冠も鐘形で白色、4裂し、直径約2.5mmである。蒴果は球形で直径2.5mm程度、先端に花柱が残る。

【分布の概要】

【県内の分布】

豊橋北部（芹沢 78850）。豊川宝飯（一宮村 足山田、鳥居喜一 s.n., 1947-10-12, HNSM）、渥美（伊良湖、岡田善敏 s.n., 1948-10-22）、豊田北西部（猿投山、岡本英一 684, 1958-8-18）で採集された標本もある。

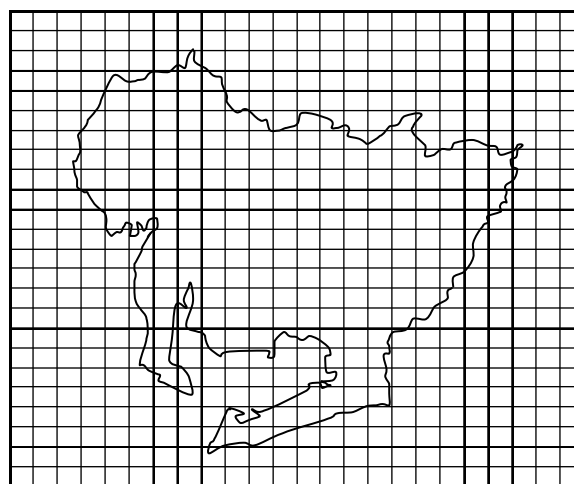
【国内の分布】

本州、四国、九州、琉球。

【世界の分布】

日本、朝鮮半島からインド、マレーシア、オーストラリアにかけて広く分布する。

要配慮地区図



【生育地の環境 / 生態的特性】

湧水湿地の中のやや裸地状の場所に生育する。

	山地	丘陵	平野	海浜
森林				
草・岩				
湿地		○		
水域				

【現在の生育状況 / 減少の要因】

極めて狭い範囲に、少数個体が生育しているだけである。過去の自生地では、開発や遷移の進行により絶滅したものと思われる。

【保全上の留意点】

遷移の進行による湿地の消失が最も懸念される。目立たない植物なので他にも自生地が残存している可能性があり、更に探索する必要もある。

【特記事項】

レッドデータブックあいち 2001 植物編では絶滅と判断したが、その後新たな自生地が発見された。

【関連文献】

保草本Ⅰ p.223、平草本Ⅲ p.27、環境庁 p.327。

クサタチバナ *Cynanchum ascyrifolium* (Franch. et Sav.) Matsum.

【選定理由】

個体数階級 3、集団数階級 4、生育環境階級 4、人為圧階級 3、固有度階級 2。草地性の植物で、愛知県では生育地も個体数も極めて少ない。

【形態】

多年生草本。茎は直立し、緑色で分枝せず、高さ 30~60cm になる。葉は対生し、長さ 5~16mm の柄があり、葉身は卵形~長楕円形、長さ 5~13cm、幅 3~6cm、先端は鋭尖頭、基部はくさび形~浅い心形、両面脈上に微毛がある。花期は 6~7 月、花は長い総花柄があつて茎の上部に集まり、小花柄は長さ 1~3cm、花冠は白色、直径約 2cm、5 裂し、裂片は長楕円形で先端は円頭である。袋果は広披針形で長さ 4~6cm、無毛である。

【分布の概要】

【県内の分布】

蒲郡(鈴木恵美子 457)、渥美(小林 51570)。

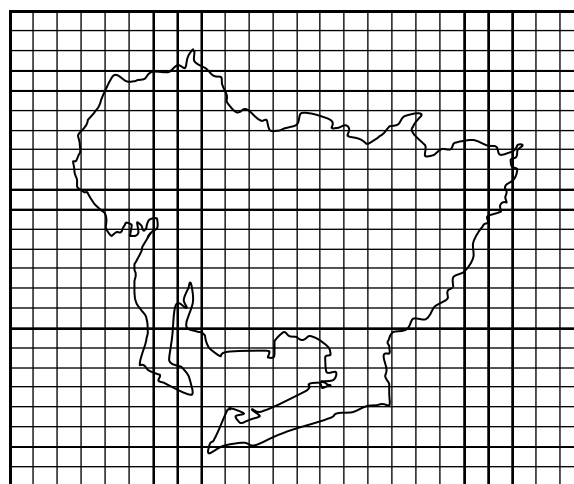
【国内の分布】

本州(関東地方以西)および四国。

【世界の分布】

日本、朝鮮半島、中国大陸東北部。

要配慮地区図



【生育地の環境 / 生態的特性】

山地の草地に生育することが多いが、愛知県では丘陵地の林縁に生育している。

	山地	丘陵	平野	海浜
森林		○		
草・岩		○		
湿地				
水域				

【現在の生育状況 / 減少の要因】

2カ所のうち1カ所は小集団であるが、他の1カ所は個体数が極めて少ない。どちらの場所でも、周辺の樹木の生長によって被陰され、衰退傾向にある。1カ所は観光地の近くであり、1カ所は隣接地が採石場になっていて、生育地自体が破壊される恐れもある。

【保全上の留意点】

生育地の地形を保全すると共に、周辺の樹木を伐採し、光条件を回復させる必要がある。園芸目的の採取やカメラマン、観察者による攪乱を防止するため、分布情報の公表に際し慎重な配慮が必要である。

【特記事項】

この類としては、花の大きい植物である。

【関連文献】

保草本 I p.207、平草本 III p.41、SOS 旧版 p.72+図版 10。

ミヤマキヌタソウ *Galium nakaii* Kudo

【選定理由】

個体数階級 3、集団数階級 4、生育環境階級 3、人為圧階級 2、固有度階級 4。本来は亜高山性の植物で、本地域に著しい隔離分布をする。愛知県では生育地も個体数も極めて少なく、存続の基盤が脆弱である。

【形態】

多年生草本。横走する地下茎があり、根は橙色を帯びる。茎は少数が束生し、高さ 12~20cm、平滑である。葉は 4 枚輪生し、短い柄があり、葉身は卵形~楕円形、長さ 12~18mm、幅 7~10mm、6~15mm、幅 3~8mm、先は鋭頭または鈍頭で微凸端、基部はやや急に細まってから狭いくさび形になり、辺縁と脈上には上向きの剛毛がある。花期は 4 月下旬~5 月、茎の先端や上部の葉腋に小さい花序を出し、2~5 個の花をつける。苞は卵形~広披針形、長さ 1.5~2mm である。花冠は淡黄緑色で 4 裂し、直径 2.5~3mm である。果実には上向きに曲がった毛がある。

【分布の概要】

【県内の分布】

豊橋北部 (小林 42656)。

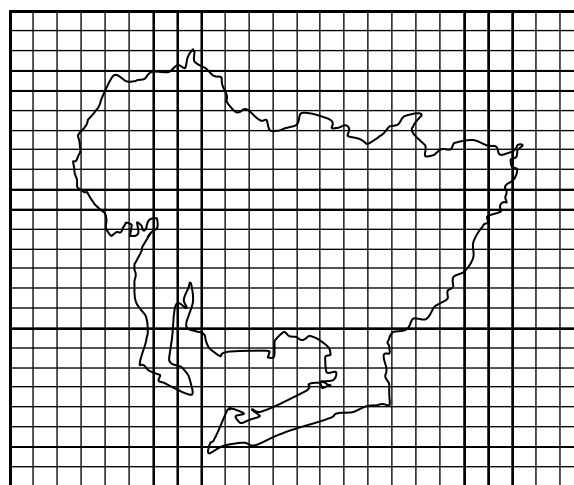
【国内の分布】

北海道および本州 (東北地方) に分布する。

【世界の分布】

日本固有種。

要配慮地区図



【生育地の環境 / 生態的特性】

通常は亜高山の岩地などに生育する。

	山地	丘陵	平野	海浜
森林	○			
草・岩				
湿地				
水域				

【現在の生育状況 / 減少の要因】

塩基性岩地の湿った二次林内の 2 地点に、小群落がある。伐採などにより全滅のおそれがある。また人里近くの低山なので、開発の可能性も高い。

【保全上の留意点】

生育地の林を保全することが必要である。

【特記事項】

しばらく種名がわからず、ホノクニキヌタソウ (「穂の国」は東三河地方の古名) と仮称していた植物である。最近になって初島住彦氏の示唆により再検討したところ、全体にかなり貧弱であるが、それ以外の点ではミヤマキヌタソウと明確な差がないことが判明した (小林, 2001)。詳細な点は更に検討する必要があるが、ここではミヤマキヌタソウとして評価・掲載する。上述の形態はミヤマキヌタソウ一般ではなく、愛知県産の植物に関するものである。

【引用文献】

小林元男, 2001. 愛知県地域別植物誌(1) 豊橋市の植物 p.35+図版 2. 愛知県植物誌調査会, 刈谷。

【関連文献】

平草本Ⅲp.55、SOS 新版 p.199,206。

ムラサキ *Lithospermum officinale* L. subsp. *erythrorhizon* (Sieb. et Zucc.) Hand.-Mazz.

【選定理由】

個体数階級 4、集団数階級 4、生育環境階級 4、人為圧階級 3、固有度階級 2。全国的に減少傾向の著しい草地性植物で、愛知県でも生育地、個体数ともに極めて少なく、危機的な状況にある。

【形態】

多年生草本。根は太く、乾くと濃紫色となる。茎は直立し、高さ 40~70cm になる。葉は互生し、無柄、葉身は披針形~長楕円形、長さ 3~7cm、幅 7~20mm、先端は鋭頭、基部も鋭形、辺縁は全縁、質は厚く、粗い毛があり、数個のほぼ平行する側脈がある。花期は 6~7 月、花冠は白色、長さ 6mm 程度の花筒があり、先は 5 裂して平開し、直径約 4mm、喉部には黄色をおびた突起がある。分果は灰白色で光沢があり、平滑、長さ約 3mm である。

【分布の概要】

【県内の分布】

豊橋北部 (小林 37219) にごく僅かに生育している。ただし、ごく最近の状況は確認されていない。新城 (大原, 井波一雄 s.n., 1964-6-6, CBM192774) で採集された標本もある。

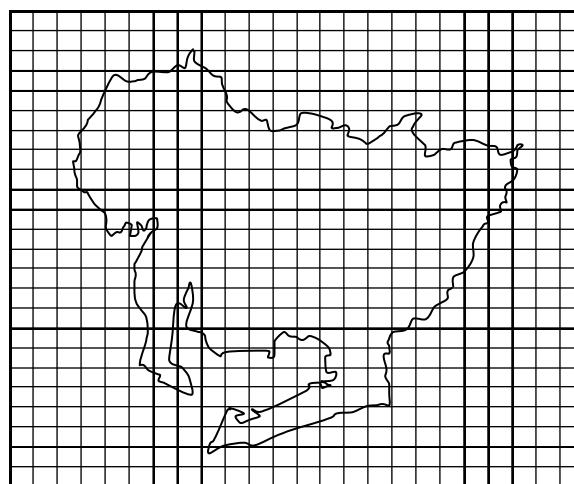
【国内の分布】

北海道、本州、四国、九州。

【世界の分布】

日本、朝鮮半島、中国大陸、アムール。

要配慮地区図



【生育地の環境 / 生態的特性】

日当たりのよい草地に生育する。ススキなどが茂る場所には見られないが、草刈りが強度にくり返される場所にも見られない。

	山地	丘陵	平野	海浜
森林				
草・岩	○			
湿地				
水域				

【現在の生育状況 / 減少の要因】

近年生育が確認されているのは 1 か所だけで、個体数も極めて少ない。開発や遷移の進行によって生育できるような草地が減少し、危機的な状況に追い込まれている。生育していた草地が開墾され、柿畑にされてしまった例もある。根から紫色の染料をとる植物として有名なため、マニアの採取も無視できない。カメラマンや自称自然愛好家が押しかけて、生育地を攪乱することも懸念される。ただし本種の場合は、他にも何か減少の要因があるかもしれない。まだそれなりに草地が残っていた 30 年前でも、すでにほとんど幻の植物であった。

【保全上の留意点】

採草地として利用されてきた草地を、草刈りや火入れによってその状態のまま保全することが必要である。マニアの採取やカメラマンによる攪乱を防止するため、分布情報の公表に際し慎重な配慮が必要である。

【関連文献】

保草本 I p.196、平草本 III p.64、SOS 旧版 p.74、環境庁 p.334、SOS 新版 p.59,61。

キセワタ *Leonurus macranthus* Maxim.

【選定理由】

個体数階級 4、集団数階級 4、生育環境階級 4、人為圧階級 3、固有度階級 2。全国的に減少傾向の著しい草地性の植物で、愛知県でも生育地、個体数ともに極めて少ない。

【形態】

多年生草本。茎は直立し、断面は四角形で、高さ 60~100cm になる。葉は対生し、長さ 1~3cm の柄があり、葉身は卵形または狭卵形、長さ 5~9cm、幅 3~7cm、先端は鋭頭または鋭尖頭、基部は広くさび形またはやや切形、辺縁には欠刻状のあらい鋸歯がある。花期は 8~9 月、花は上部の葉腋に数個ずつつき、紅紫色、花冠は唇形で長さ 25~30mm、下唇の中央裂片は下に曲がり、外面は密に白毛がある。分果は長さ約 2.5mm、黒色である。

【分布の概要】

【県内の分布】

豊橋北部（星野清治 1）。稲武（大野瀬，鳥居喜一 1472, 1977-8-11, HNSM）で採集された標本もある。

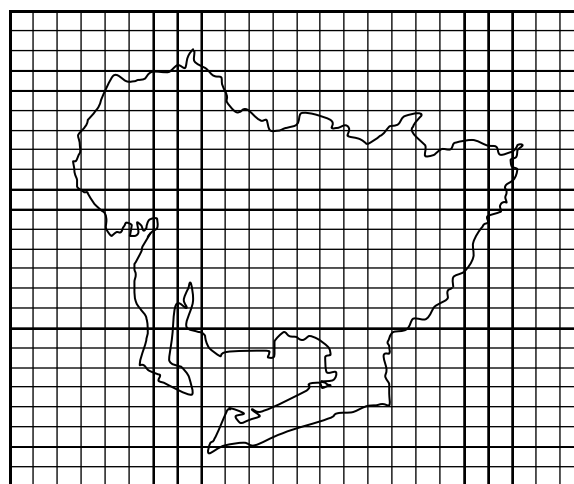
【国内の分布】

北海道、本州、四国、九州。

【世界の分布】

日本、朝鮮半島、中国大陸。

要配慮地区図



【生育地の環境 / 生態的特性】

山地や丘陵地の草地に生育する。ただし愛知県での生育地は林縁である。

	山地	丘陵	平野	海浜
森林				
草・岩	○			
湿地				
水域				

【現在の生育状況 / 減少の要因】

現存が確認できるのは 1 株だけである。周辺の樹木の生長によって被陰されており、将来の存続が懸念される。

【保全上の留意点】

個別的な保全が必要であるが、一方で持ち去られるおそれもあり、対応が難しい。一般的には、地域共同の採草地として利用されてきた山地の草地（カヤ場）は利用の停止によって森林化が進み、全国的にも愛知県でもほとんど壊滅状態である。稜線の草地は、防火帯としても展望を楽しむという点でも重要であり、草刈りや火入れによって維持していく必要がある。

【特記事項】

和名は「着せ綿」で、花冠上唇の外側に白毛があるからだと言われる。

【関連文献】

保草本Ⅰ p.179、平草本Ⅲ p.90、SOS 旧版 p.76、環境庁 p.523。

ヒメハッカ *Mentha japonica* (Miq.) Makino

【選定理由】

個体数階級 4、集団数階級 4、生育環境階級 4、人為圧階級 2、固有度階級 2。全国的に減少傾向の著しい湿地性植物で、愛知県でも生育地、個体数ともに極めて少ない。

【形態】

多年生草本。細く長い地下茎がある。地上茎は直立して高さ 20~40cm、節に短い軟毛があるほかは無毛である。葉は対生し、柄はごく短いかまたはほとんどなく、葉身は卵状長楕円形、長さ 1~2cm、幅 3~8mm、先端は鈍頭、辺縁は全縁である。花期は 8~10 月、花は枝先に集まってつき、がくは 5 浅裂し、長さ約 2.5mm、無毛で腺点がある。花冠は 4 裂し、淡紅紫色またはほとんど白色、長さ約 3.5mm である。茎が長く 1m 以上に伸び、しばしば倒伏するものをハイヒメハッカ form. *prostrata* Sugim. という。

【分布の概要】

【県内の分布】

ハイヒメハッカの型が田原赤羽根（小林 54059）にある。半田武豊（半田市半田池，井波一雄 s.n., 1954- 9-4, CBM222693）で採集された標本もある。狭義のヒメハッカの型は、豊橋北部（岩田町，鳥居喜一 21226, 1947-10-19, HNSM）と渥美（伊良湖，岡田善敏 s.n., 1948-10-22）で採集された標本があるが、現存は確認できない。

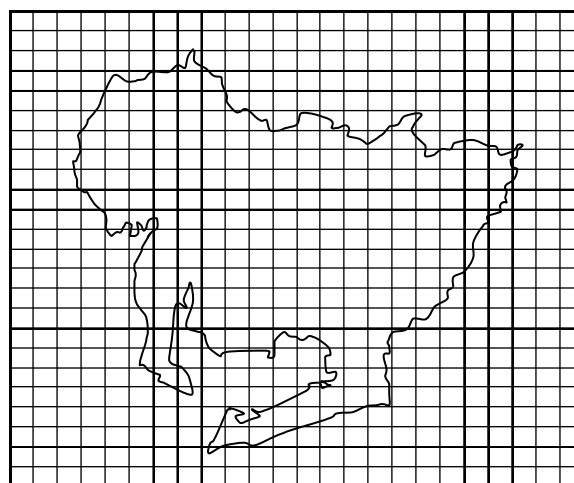
【国内の分布】

北海道および本州。

【世界の分布】

日本固有種。

要配慮地区図



【生育地の環境 / 生態的特性】

ため池の岸などの湿地に生育する。

	山地	丘陵	平野	海浜
森林				
草・岩				
湿地		○		
水域				

【現在の生育状況 / 減少の要因】

近年現存が確認されているのは 1 か所だけで、個体数も極めて少ない。当面開発されたり水が汚染されたりするおそれは少ないが、周辺の樹木が生長しており、このままでは本種が生育する水辺の草地が消滅してしまう可能性が高い。ごく最近の状況は確認できておらず、すでに絶滅した可能性もある。

【保全上の留意点】

ため池周辺の森林を伐採し、水辺の草地を維持する必要がある。

【特記事項】

ハッカと同様の芳香がある。

【関連文献】

保草本 I p.175、平草本 III p.84、SOS 旧版 p.77、環境庁 p.524。

イズコゴメグサ

Euphrasia insignis Wettst. subsp. *iinumae* (Takeda) Yamazaki var. *idzuensis* (Takeda) Yamazaki

【選定理由】

個体数階級 4、集団数階級 4、生育環境階級 4、人為圧階級 2、固有度階級 3。地理的な分化が著しいコゴメグサ群の中の 1 型で、本州中部太平洋側に分布しており、愛知県は分布域の西限にあたる。県内では生育地も個体数も極めて少なく、危機的な状況である。

【形態】

1 年生草本。茎は上部で分枝し、高さ 30~45cm になる。葉は対生し、ほとんど無柄、葉身は卵形~楕円形、長さ 5~10mm、幅 3~6mm、辺縁の鋸歯は 2~3 対で鋭頭である。花期は 9~10 月、花は上部の葉腋に 1 個ずつつき、花冠は唇形、上唇の先まで長さ 8~9mm、下唇は幅が広く、上唇のほぼ 2 倍の長さがあり、白色で紫色の条があり、内面に黄斑がある。蒴果は倒卵形で長さ約 5mm、中に 3~5 個の大型の種子がある。

【分布の概要】

【県内の分布】

鳳来南部 (小林 32313)。

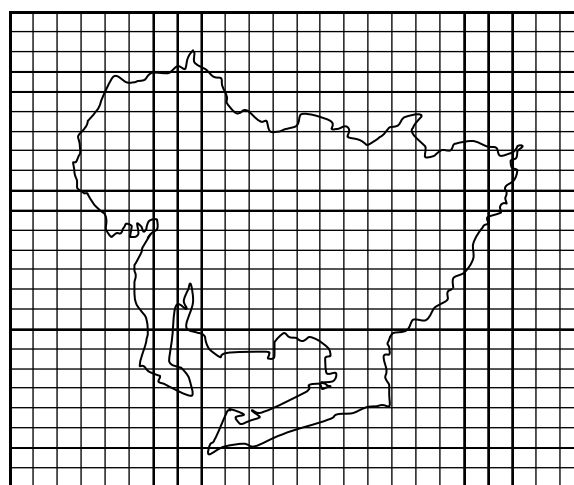
【国内の分布】

本州 (伊豆半島~東海地方)。

【世界の分布】

日本固有。種としても日本固有である。

要配慮地区図



【生育地の環境 / 生態的特性】

日あたりのよい草地に生育する。愛知県の生育地はやや湿った場所である。

	山地	丘陵	平野	海浜
森林				
草・岩	○			
湿地				
水域				

【現在の生育状況 / 減少の要因】

2 カ所に生育していたが、どちらも個体数は極めて少なく、しかも遷移が進行して大形の草本が多くなり、最近ほとんど確認できないという。すでに絶滅した可能性もある。

【保全上の留意点】

定期的に草刈りを行い、丈の低い草地状態を維持することが必要である。希少性につられてマニアが採取するのを防止するため、分布情報の公表に際し慎重な配慮が必要である。

【特記事項】

愛知県のコゴメグサ属植物としては、他にイナコゴメグサらしい写真が大原 (1981) に掲載されているが、裏付けとなる標本は残されていない。

【引用文献】

大原準之助, 1981. 津具村の植物 図版 14. 津具村教育委員会, 同村.

【関連文献】

保草本 1 p.131、平草本 III p.120、SOS 旧版 p.79+図版 11、環境庁 p.341。

バアソブ *Codonopsis ussuriensis* (Rupr.et Maxim.)Hemsl.

【選定理由】

個体数階級 4、集団数階級 4、生育環境階級 4、人為圧階級 2、固有度階級 2。草地性の植物で、愛知県では生育地も個体数も極めて少ない。

【形態】

多年生のつる性草本。根は球状の塊根になる。茎は細く、全体に白毛を散生し、切ると白い乳液が出る。葉は各側枝に3~4枚集まって互生し、短い柄があり、葉身は楕円形、長さ2~4cm、幅1~2cm、先端は鈍頭、辺縁は全縁、裏面に白毛が密生する。花期は8月、花は側枝の先について下垂し、がく裂片は5個で披針形、長さ1~1.5cm、花冠は鐘形で長さ2~2.5cm、内面は濃紫色をおび、特に下半分には濃紫色の斑点がある。種子は濃褐色で光沢があり、翼がない。

【分布の概要】

【県内の分布】

額田(福岡義洋 1153, 1990-8-21)で1回採集されただけである。

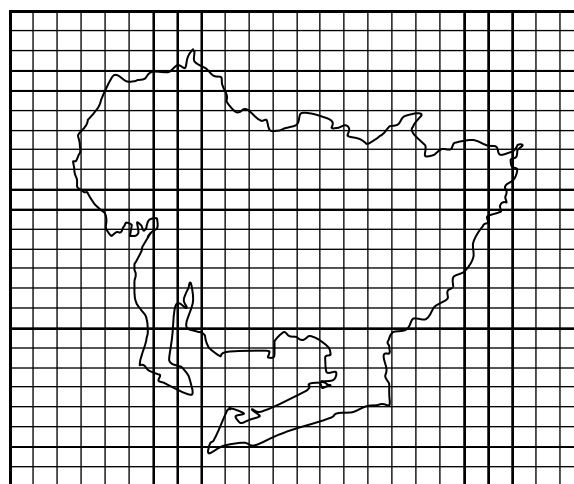
【国内の分布】

北海道、本州、四国、九州。

【世界の分布】

日本、朝鮮半島、中国大陸東北部。

要配慮地区図



【生育地の環境 / 生態的特性】

山間部の草地に生育する。

	山地	丘陵	平野	海浜
森林				
草・岩	○			
湿地				
水域				

【現在の生育状況 / 減少の要因】

1回採集されたことがあるだけで、その後確認されていない。草地の減少により、すでに絶滅した可能性もある。

【保全上の留意点】

丘陵地や低山地の谷戸田周辺にある里草地(いわゆるボタ)を中心に、更に探索する必要がある。里草地には本種以外にもさまざまな草地性植物が生育しており、その中には絶滅危惧植物も多い。文化遺産としても重要で、特に保全に配慮する必要がある。

【特記事項】

大原(1971)は額田のほか岡崎、足助、旭を生育地としてあげているが、確実な資料は残されていない。以前はもう少しあちこちにあったのかもしれないが、愛知県の低山地にはツルニンジンの葉裏に毛がある型が広く分布しており、それを誤認した可能性もある。

【引用文献】

大原準之助, 1971. 愛知県国有林の植物誌 p.118. 名古屋営林局, 名古屋.

【関連文献】

保草本 I p.92、平草本 III p.150、SOS 旧版 p.84.

ヒメヨモギ *Artemisia feddei* Lev. et Van.

【選定理由】

個体数階級 3、集団数階級 4、生育環境階級 4、人為圧階級 3、固有度階級 2。海浜性の植物で、愛知県では生育地が極めて少なく、減少傾向も著しい。

【形態】

多年生草本。横走る長い地下茎がある。茎は高さ 1~1.2m、よく分枝し、しばしば紫色をおびる。根出葉は花時に枯れ、茎の中部の葉は互生し、ほとんど無柄、葉身は羽状に深裂し、長さ 3~7cm、幅 3~6.5cm、裂片は下面に白綿毛があり、幅は 3mm 以下である。茎の上部の葉は、通常単葉となる。花期は 8~10 月、茎の先端につく大きな円錐花序に、小さい頭花を多数つける。総苞は筒状鐘形で長さ 2mm、幅 1mm 程度、総苞片は 4 列に並ぶ。

【分布の概要】

【県内の分布】

豊橋南部(芹沢 76528)、田原赤羽根(小林 75657)。このほか砂防用の種子に混じって移入されたものがところどころの路傍などに生育しているが、これらは評価の対象外で、むしろ除去が望ましい。

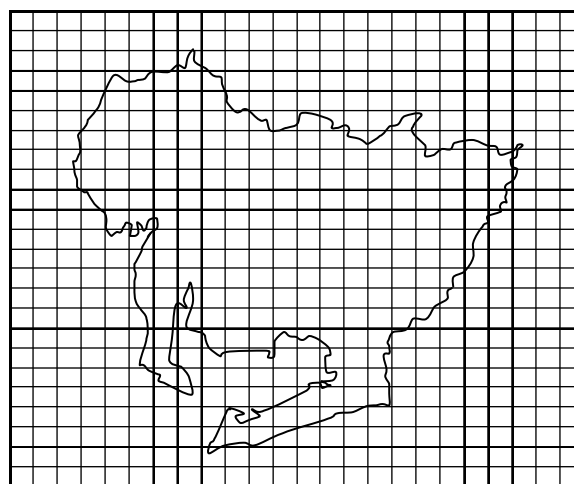
【国内の分布】

本州、四国、九州。

【世界の分布】

日本、朝鮮半島、中国大陸。

要配慮地区図



【生育地の環境 / 生態的特性】

山地や河川敷の原野、または海浜のやや塩湿地状の場所に生育する。愛知県の自生地は後者である。

	山地	丘陵	平野	海浜
森林				
草・岩				
湿地				○
水域				

【現在の生育状況 / 減少の要因】

各 1 カ所、ごく狭い範囲に生育しているだけである。開発等があれば、容易に絶滅すると思われる。以前は、三河湾最奥部に点在していたのではないと思われる。

【保全上の留意点】

内湾の塩湿地は、開発圧力が高く、全国的にも愛知県でも急激に減少している。現在残存している場所は、特に注意して保全する必要がある。本種の場合はハマツナやフクドが生育するいかにも塩湿地という場所ではなく、どちらかと言えば単なる荒れ地にしか見えないような場所に生育しているので、とりわけ注意が必要である。

【特記事項】

海浜性のものと草地性のものとの関係については、更に検討が必要である。

【関連文献】

保草本 I p.56、平草本 III p.172、SOS 新版 p.158,160。

コバナガンクビソウ *Carpesium taberii* Winker

【選定理由】

個体数階級 3、集団数階級 4、生育環境階級 3、人為圧階級 2、固有度階級 3。西日本系の植物で、愛知県は分布域の東限にあたる。県内では生育地、個体数ともに極めて少ない。総点は 15 であるが、シカの食害が著しいため、CR と評価する。

【形態】

多年生草本。茎は直立し、上部でよく分枝し、高さ 50～70cm、しばしば紫褐色をおびる。葉は互生し、下部の葉は長い柄があり、柄を含めて長さ 10～14cm、幅 2.5～4.5cm、葉身は卵状長楕円形、先端は鋭尖頭、基部はくさび形になる。花期は 8～10 月、頭花は枝の先端について點頭し、基部に頭花より長い苞葉がある。総苞は鐘球形、長さ 4mm、直径 4～5mm、総苞片は 4 列で、外片は短い。小花はすべて筒状花で、花冠は汚れた黄色である。そう果は長さ 2.5mm、冠毛はない。

【分布の概要】

【県内の分布】

豊根（芹沢 77977）、東栄（芹沢 77981）。

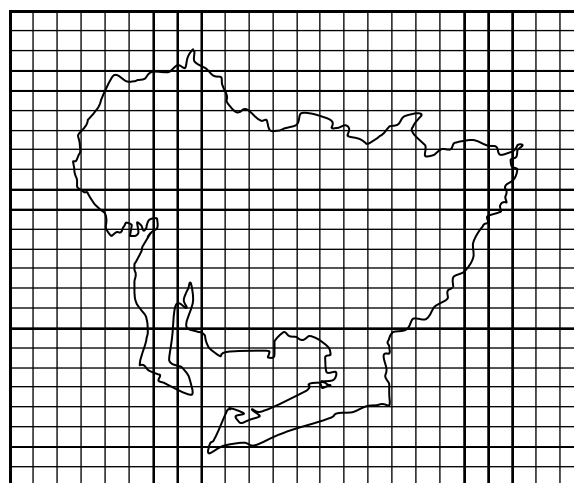
【国内の分布】

本州（愛知県以西）、九州。

【世界の分布】

日本、台湾、中国大陸（湖北省、四川省、貴州省）。

要配慮地区図



【生育地の環境 / 生態的特性】

山地の林縁に生育する。

	山地	丘陵	平野	海浜
森林	○			
草・岩				
湿地				
水域				

【現在の生育状況 / 減少の要因】

道路沿いの明るい林縁に、少数株が生育している。現地はシカの食害が著しく、まともな状態の株はほとんど見られない。道路の拡幅や遷移の進行により失われるおそれもある。

【保全上の留意点】

防護柵の設置を検討する必要がある。道路の拡幅に際しても注意が必要である。

【特記事項】

バンジンガンクビソウとも呼ばれる。

【関連文献】

保草本Ⅰ p.72、平草本Ⅲ p.203。

イソギク *Dendranthema pacificum* (Nakai) Kitam.

【選定理由】

個体数階級 4、集団数階級 4、生育環境階級 3、人為圧階級 3、固有度階級 2。本州中部の太平洋岸に分布する植物で、愛知県は分布域の西限にあたる。県内では生育地、個体数ともに極めて少ない。

【形態】

多年生草本。茎は叢生し、通常高さ 30～50cm だが愛知県のは 90～120cm、先端部に密に葉をつける。葉は楕円形～倒卵形、長さ 3～12mm の柄があり、葉身は長さ 3.5～5cm、幅 2～2.5cm、基部はくさび形、上部は浅く羽裂し、先端は鈍頭、質は厚く、表面は深緑色、裏面は密毛があつて銀白色となる。花期は 11 月、頭花は茎の先端に多数集まってつき、黄色で直径 5～6mm である。

【分布の概要】

【県内の分布】

渥美(芹沢 81164)。1カ所に小群落がある。

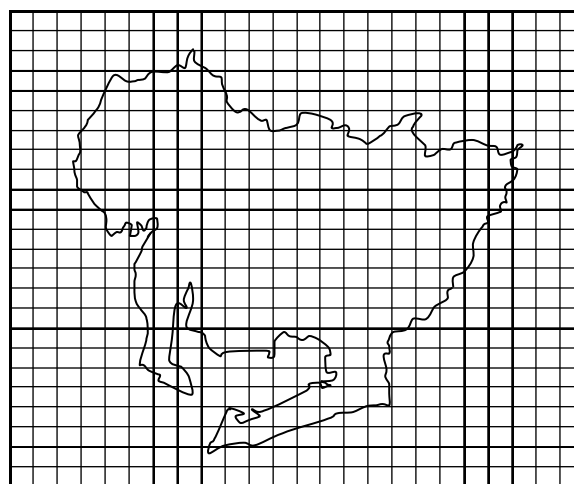
【国内の分布】

本州中部(千葉県～愛知県)。

【世界の分布】

日本固有種。

要配慮地区図



【生育地の環境 / 生態的特性】

海岸の崖地に生育する。

	山地	丘陵	平野	海浜
森林				
草・岩				○
湿地				
水域				

【現在の生育状況 / 減少の要因】

太平洋に面した泥質の崖地に少数個体が生育している。崖地の崩落によって失われる可能性がある。

【保全上の留意点】

生育地の個別的な保全が必要である。表浜海岸は浸食防止や観光開発のためにさまざまな工事が行われているので、その際にも特に注意が必要である。

【特記事項】

レッドデータブックあいち 2001 植物編発行後に愛知県での自生が確認された種類である。隣接して、栽培ギクとの雑種と推定される植物も生育している(標本：芹沢 81165)。紀伊半島には近縁のキノクニシオギク *D. shiwogiku* (Kitam.) Kitam. var. *kinokuniense* (Shimotomai et Kitam.) Kitam. が生育している。

【関連文献】

保草本 I p.72、平草本 III p.203。

ヤマジノギク *Heteropappus hispidus* (Thunb.) Less.

【選定理由】

個体数階級 4、集団数階級 4、生育環境階級 3、人為圧階級 3、固有度階級 2。草地性の植物で、愛知県では生育地も個体数も極めて少なく、また減少傾向が著しい。

【形態】

越年生草本。茎はよく分枝し、高さ 30~100cm になる。根出葉は倒披針形で長さ 7~13cm、幅 10~15mm、開花時には枯れる。茎葉は互生し、倒披針形から線形、長さ 5~7cm、幅 4~20mm、基部はしだいに細くなる。上部の葉は小さく、線形になる。花期は 9~11 月、頭花は枝の先に散房状に集まってつき、直径 3.5cm 程度、総苞は長さ 7~8mm で、総苞片は 2 列にならぶ。舌状花は淡青紫色でごく短い白色の冠毛があり、筒状花は長さ 3.5~4mm の帯赤褐色の冠毛がある。そう果は扁平で、長さ 7~8mm である。

【分布の概要】

【県内の分布】

比較的最近では、鳳来南部（芹沢 83489）、新城（芹沢 54951）、豊川宝飯（小林 40093）、田原赤羽根（芹沢 54077）、渥美（芹沢 54091）、稲武（小林 48239）、足助（芹沢 76626）の 7 区画で生育が確認されている。ただしこれらのうちかなりの場所では、すでに絶滅している可能性が高い。上記の集団数階級は見込み値である。鳳来北東部（榎原，小林 19600, 1978-10-28）、蒲郡御津（三河大島，大原準之助 s.n., 1964-10-20）、旭（東加塩，大原準之助 s.n., 1964-10-18）、知多南部（内海，相羽福松 415, 1979-12-1）などで採集された標本もある。

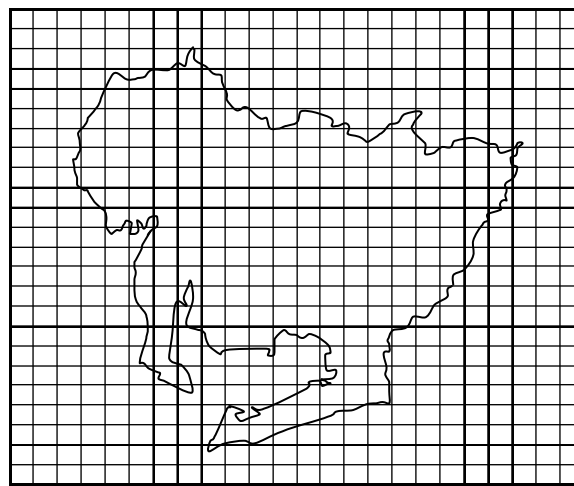
【国内の分布】

本州（伊豆半島以西）、四国、九州。

【世界の分布】

日本、朝鮮半島、中国大陸。

要配慮地区図



【生育地の環境 / 生態的特性】

山地の日あたりのよい草地に生育する。足助の生育地は林道のわきである。鳳来南部、新城、豊川宝飯、田原赤羽根、渥美の生育地は超塩基性岩地で、これらの場所のものはヤマジノギクほどではないが、葉がやや細い傾向がある。

	山地	丘陵	平野	海浜
森林				
草・岩	○	○		
湿地				
水域				

【現在の生育状況 / 減少の要因】

どうということのない場所に生育しているが、それでいてなかなか見ることができなくなってしまった植物である。林道わきなどに生育しているものは、道路の改修や拡幅により失われるおそれがある。足助でも 2007 年には消失していた。残されている標本から判断すれば、草地が広く存在していた時代には、あちこちに生育していたものと思われる。東三河南部の超塩基性岩地には 1990 年代の初めまで点々と残存していたが、それらの場所でも遷移の進行により草地が激減し、現在ではほとんど見られなくなった。

【保全上の留意点】

生育地の地形を保全すると共に、草刈り等によって草地状態を維持することが必要である。道路の拡幅の際にも、注意が必要である。

【特記事項】

アレノギクとも呼ばれ、レッドデータブックあいち 2001 植物編ではその名で掲載した。しかし、攪乱地であってもそれなりに自然度の高い場所に生育していることが多いから、和名としては「ヤマジノギク」の方が適切である。新城や豊橋北部の超塩基性岩地に生育する葉も枝も著しく細いものはヤマジノギクとして区別し、426 頁に示す。

【関連文献】

保草本 I p.84、平草本 III p.199、SOS 新版 p.54,56。

ミコシギク *Leucanthemella linearis* (Matsum.) Tzvelev

【選定理由】

個体数階級 3、集団数階級 4、生育環境階級 4、人為圧階級 2、固有度階級 3。国内では遺存的に分布する大陸系の植物で、愛知県においてもわずかに残存しているだけである。

【形態】

多年生草本。長い地下茎がある。茎は直立し、上部で多少枝を分け、高さ 30~100cm になる。葉は互生し、無柄、葉身は通常羽状に深裂し、裂片は 1~2 対で幅 2~3mm、辺縁は裏面に曲がる。花期は 9~11 月、頭花は枝の先端に 1 個ずつつき、直径 3~6cm、周辺部に 1 列の白色の舌状花があり、総苞は長さ約 5~6mm で、総苞片は 3 列に並び、ほぼ同長である。

【分布の概要】

【県内の分布】

豊橋北部（芹沢 57907）、豊田東部（芹沢 53789）。このほか設楽西部（東納庫，鳥居喜一 25881, 1974-9-25, HNSM）と作手にも自生地があったが、開発により絶滅した。ただし作手のものは村内の人工湿地に移植されて、その場所で現在も存続している（標本：芹沢 57430）。

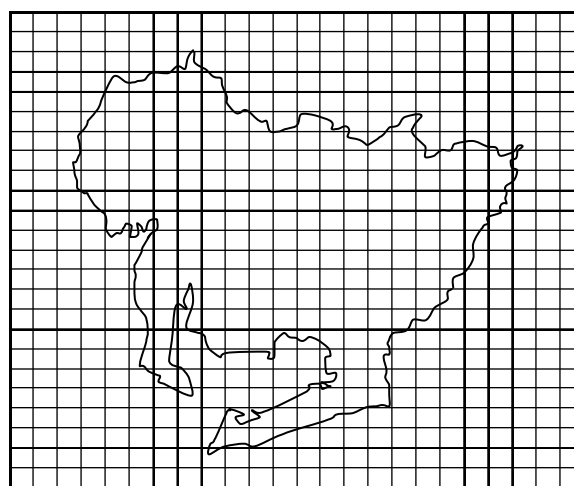
【国内の分布】

本州および九州。

【世界の分布】

日本、朝鮮半島、中国大陸に隔離的に分布する。

要配慮地区図



【生育地の環境 / 生態的特性】

日あたりのよい湿地に生育する。

	山地	丘陵	平野	海浜
森林				
草・岩				
湿地	○	○		
水域				

【現在の生育状況 / 減少の要因】

豊橋北部（葦毛湿原）は本種の自生地として昔から有名であり、かつては相当の株数があったが、現在は数株が残存しているにすぎない。周囲の樹木の生長により被陰されているため、このままでは将来の存続は困難である。豊田東部の自生地はフェンスで囲われ保護されているが、ここでも個体数は少ない。

【保全上の留意点】

周辺の樹木を伐採し、生育地の光条件を改善することが必要である。なお、作手での移植は新しく人工湿地を作って行われたため、ミズギクの項（589 頁）で述べたような問題は生じていない。

【特記事項】

「日本の野生植物」Ⅲ132 図版には、葦毛湿原で 1974 年に撮影された写真が掲載されている。「植物からの SOS」（SOS 旧版）19 図版の写真は 1990 年撮影である。

【関連文献】

保草本Ⅰ p.58、平草本Ⅲ p.164、SOS 旧版 p.87+図版 19、環境庁 p.556、SOS 新版 p.102,104。

ヒメヒゴタイ *Saussurea pulchella* Fisch.

【選定理由】

個体数階級 4、集団数階級 4、生育環境階級 4、人為圧階級 3、固有度階級 2。全国的に減少傾向が著しい草地性植物で、愛知県でもわずかに残存しているにすぎない。

【形態】

越年生草本。茎は直立し、上部でよく分枝し、高さ 30～150cm になる。葉は互生し、長さ 12～18cm、葉身は切れ込まないことも羽状深裂することもあり、基部は次第に細まり、茎に沿下して翼となることもならないこともある。葉の裏面には腺点がある。花期は 8～10 月、頭花は茎の先端に多数つき、紅紫色、直径 12～16mm、総苞は幅 10mm 程度で、総苞片の先には膜質で淡紅色の付属物があり、つぼみの時も美しい。そう果は長さ 3.5～4.5mm で、長さ 7～8.5mm の冠毛がある。

【分布の概要】

【県内の分布】

渥美（小林 49232）。1 地点に僅かに残存していたが、ごく最近の状況は確認されていない。新城（宇利峠，小林 21413，1979-10-13）、豊橋北部（石巻萩平町，小林 21449，1979-10-27）などで採集された標本もある。鳳来南部の県境静岡県側には、現在でも少数個体が生育している。

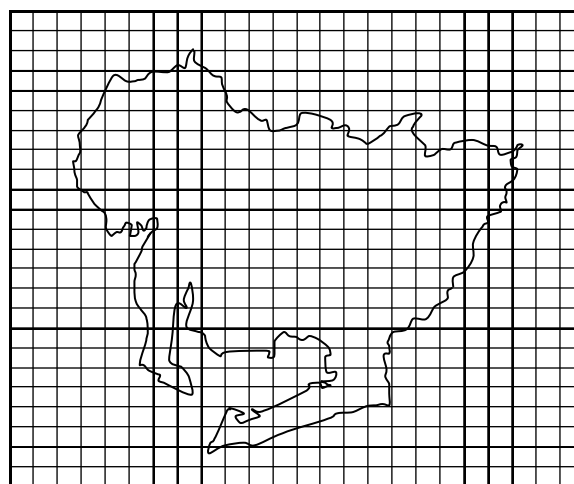
【国内の分布】

北海道、本州、四国、九州。

【世界の分布】

サハリン、日本、朝鮮半島、中国大陸東北部、シベリア東部。

要配慮地区図



【生育地の環境 / 生態的特性】

日あたりのよい草地に生育する。愛知県の生育地は、超塩基性岩地である。

	山地	丘陵	平野	海浜
森林				
草・岩	○			
湿地				
水域				

【現在の生育状況 / 減少の要因】

ごく少数の個体が生育しているだけで、遷移の進行に伴い存続を脅かされている。すでに絶滅した可能性もある。

【保全上の留意点】

愛知県の蛇紋岩地、はんれい岩地は、本種を含めて多くの草地性植物の生育場所になっているが、採草地としての利用の停止に伴い、全体的に森林化が進行している。草刈りや火入れを行い、草地状態を維持する必要がある。園芸目的の採取を防止するため、分布情報の公表に際し慎重な配慮が必要である。

【特記事項】

越年生草本であるため、生育状況もやや不安定である。

【関連文献】

保草本Ⅰ p.25、平草本Ⅲ p.221、SOS 旧版 p.88、環境庁 p.557。

サクライソウ *Protolirion sakuraii* (Makino)Dandy

【選定理由】

個体数階級 3、集団数階級 4、生育環境階級 3、人為圧階級 3、固有度階級 3。全国的に減少傾向の著しい希少な腐生植物で、愛知県では生育地が極めて少ない。

【形態】

腐生の多年生草本。地下茎は短く、多数の根がある。地上茎は高さ 7~20cm、細くて硬く、淡黄色、下部に多数の鱗片葉が互生する。鱗片葉は広卵形、長さ 2~5mm、鈍頭で膜質である。花期は 7 月、茎の上部の総状花序に、10~15 個の直径 3.5~4mm の花を上向きにつけ、花被片は 6 個、卵状 3 角形、内片は長さ約 1.5mm、外片は内片の半長、下部が漏斗状に集まる。雄ずいは 6 個で、内花被片よりやや短い。

【分布の概要】

【県内の分布】

旭 (浜島繁隆 s.n., TNS)。

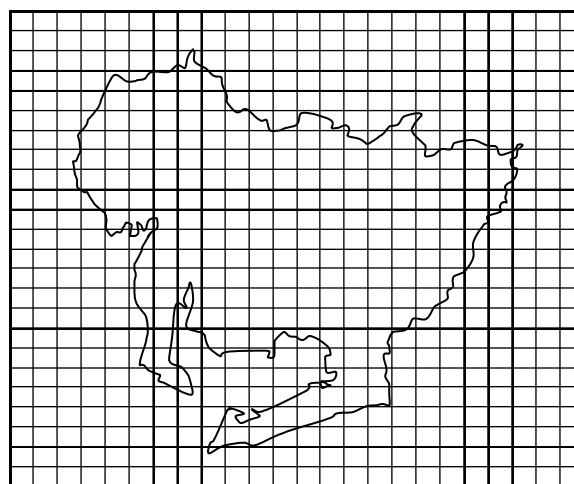
【国内の分布】

本州 (福井県、石川県、岐阜県、愛知県、京都府) に生育する。

【世界の分布】

日本固有種。

要配慮地区図



【生育地の環境 / 生態的特性】

山地の林内に生育する。現在生育している場所は造林地内らしいが、それが本来の生育環境とは思えないので、生育環境の階級は 3 として評価を行う。

	山地	丘陵	平野	海浜
森林	○			
草・岩				
湿地				
水域				

【現在の生育状況 / 減少の要因】

旭 (八幡) に県の天然記念物に指定されている自生地があった。しかしここでは、何回か探索したが発見できず、絶滅したと判断される。原因としては林床の乾燥化が考えられるが、はっきりしない。最近再発見された場所では、自然林に隣接した造林地内にかなりの個体数が見られるという。

【保全上の留意点】

現地を確認していないので、よくわからない。

【特記事項】

1908 年に岐阜県恵那山麓で桜井半三郎氏によって発見された植物である。岐阜県可児市の自生地は国の天然記念物に指定されているが、ここでも最近は見られなくなったという。

【関連文献】

保草本Ⅲp.157、平草本 I p.23、SOS 旧版 p.95、環境庁 p.196。

ミズアオイ *Monochoria korsakowii* Regel et Maack

【選定理由】

個体数階級 4、集団数階級 4、生育環境階級 3、人為圧階級 3、固有度階級 2。全国的に減少傾向の著しい湿地性～水生植物で、愛知県でも減少傾向が著しく、安定した自生地はすでになくなって

【形態】

1 年生草本。茎は多孔質でやわらかく、高さ 20～40cm になる。葉は根生または茎上に互生し、根出葉の柄は長く 10～30cm、茎葉の柄は短く 5～10cm、葉身は心形、長さ 5～10cm、幅 4～8.5cm、先端は鋭尖頭、基部は心形、辺縁は全縁、質は厚く、表面は深緑色で光沢がある。花期は 9～10 月、茎の先に総状花序を作り、花は直径 1.5～3cm、花被片は 6 個で青紫色、基部まで離生し、楕円形、長さ 15mm 程度である。果実は蒴果で卵状長楕円形、長さ約 10mm、先端につの状の花柱が残り、熟すと下向きになる。

【分布の概要】

【県内の分布】

比較的最近では、海部西部（八開村給父，山田茂貴 1158, 1996-9-23；立田村富安，山田茂貴 890, 1993-11-7）、海部南部（弥富町鰐浦，高木順夫 1502, 1991-10-6）の 2 区画で確認されている。名古屋北部（北区楠町，井波一雄 s.n., 1967-10-15, CBM165374）で採集された標本もある。

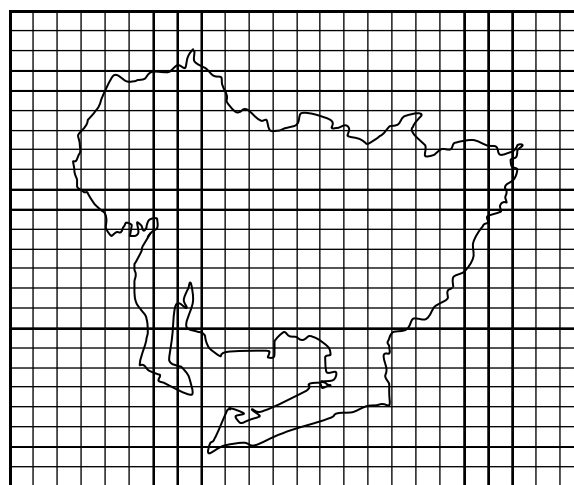
【国内の分布】

北海道、本州、四国、九州。

【世界の分布】

日本、朝鮮半島、中国大陸、ウスリー。

要配慮地区図



【生育地の環境 / 生態的特性】

平野部の水田や、低湿地のやや攪乱された場所などに生育する。

	山地	丘陵	平野	海浜
森林				
草・岩				
湿地			○	
水域				

【現在の生育状況 / 減少の要因】

かつては湿田の雑草であったらしいが、乾田化により急激に減少したと言われる。最近では河川敷の攪乱地で 3 回と休耕田で 1 回、一時的に生育したものが確認されているにすぎない。弥富では高さ 2m に達する個体が群生していたが、翌年には全く見られなかったそうである。埋土種子集団を作る植物なのでそのうちどこかでまた出現する可能性はあるが、現在のところ県内で確実に観察できる場所はない。

【保全上の留意点】

本種のような不安定な立地に生育する植物は、保全対策が極めて立てにくい。はっきり認識できないうちに絶滅という事態は、十分に考えられる。保険的措置として、人為的な系統保存を考慮する必要がある。

【特記事項】

和名は、水湿地に生育し、葉がフタバアオイに似ているからである。

【関連文献】

保草本Ⅲp.171、平草本Ⅰp.59、SOS 旧版 p.96、環境庁 p.572。

ヒトツバテンナンショウ *Arisaema monophyllum* Nakai

【選定理由】

個体数階級 4、集団数階級 4、生育環境階級 3、人為圧階級 2、固有度階級 2。温帯性の植物で、愛知県は分布域の南西限にあたる。県内では生育地も個体数も極めて少ない。総点は 15 であるが、最近確認できないので CR と評価する。

【形態】

多年生草本。地下茎は扁球形、上部から多くの根を出す。葉身のある葉は 1 個、葉鞘は長さ 15～60cm、葉身は鳥足状に分かれ、小葉は 5～9、葉軸が発達するため互いに離れてつき、小葉は楕円形～長楕円形、先端は鋭尖頭、辺縁は全縁または歯牙状の細鋸歯がある。花期は 5 月、仏炎苞は葉と同時に開き、葉とほぼ同じ高さにつき、緑色、筒部は長さ 3～5cm、口辺は狭く開出し、舷部は長三角形、前屈してまっすぐ伸び、長さ 4～8cm である。花序は肉穂状、偽雌雄異株で、小型の個体は雄花、大型の個体は雌花をつけ、付属体は棒状、上部は前方に曲がり、先端はやや扁平で幅 1.5～3mm である。仏炎苞舷部の基部には通常への字形の黒斑がある（狭義のヒトツバテンナンショウ）が、時にないもの（アキタテンナンショウ）や、舷部内側全体が黒紫色のもの（クロハシテンナンショウ）もある。

【分布の概要】

【県内の分布】

津具（芹沢 75549-アキタテンナンショウ）、
稲武（芹沢 36608）。

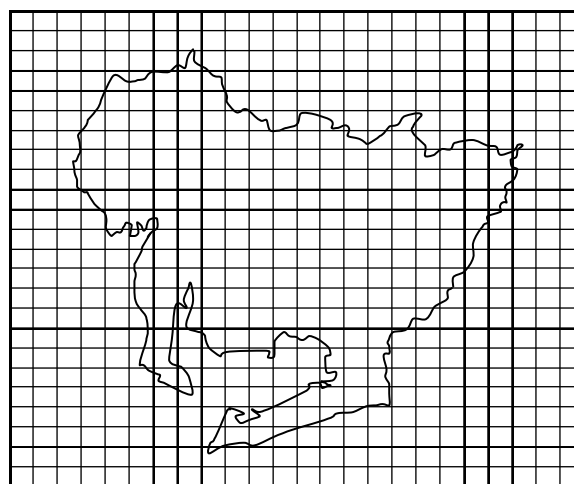
【国内の分布】

本州中北部。

【世界の分布】

日本固有種。

要配慮地区図



【生育地の環境 / 生態的特性】

山地の林内に生育する。

	山地	丘陵	平野	海浜
森林	○			
草・岩				
湿地				
水域				

【現在の生育状況 / 減少の要因】

生育地は 1 カ所だけで、個体数も極めて少ない。現地は当面開発等が想定される場所ではないが、個体数の確率的なゆらぎによって絶滅するおそれがある。

【保全上の留意点】

生育地の森林の保全が必要である。園芸目的の採取もあり得るので、分布情報の公表に際しても慎重な配慮が必要である。

【特記事項】

愛知県のテンナンショウ属の中では、個体数が最も少ない。愛知県では、狭義のヒトツバテンナンショウ型のもの、アキタテンナンショウ型のもの知られている。

【関連文献】

保草本Ⅲp.204、平草本Ⅰp.132、SOS 旧版 p.102。

ミズバショウ *Lysichiton camtschatcense* (L.) Schott

【選定理由】

個体数階級 4、集団数階級 4、生育環境階級 4、人為圧階級 4、固有度階級 2。寒冷地の湿地に生育する植物で、愛知県では生育地も個体数も極めて少ない。

【形態】

多年生草本。太い根茎がある。葉は束生し、外部のものは葉身が退化するが、内部のものは長さ 12~15cm の柄があり、葉身は長楕円形、長さ 30~40cm、幅 10~15cm、先端は鈍頭で微突端、基部はくさび形、辺縁は全縁、表面に暗色の横斑がある。花期は 5 月上~中旬、花序は葉の展開前に出るが、やがて葉が伸びてその蔭になり、肉穂状で長さ 2.5cm 程度、付属体はなく、果期には長さ 3~5cm になる。仏炎苞は長い柄があり、舷部は白色で楕円形、長さ 7~8cm、幅 4cm 程度である。

【分布の概要】

【県内の分布】

作手 (芹沢 79692)。1 カ所に少数個体が生育している。植栽されたものは、作手の他の場所を含めて、県内の数カ所にある。

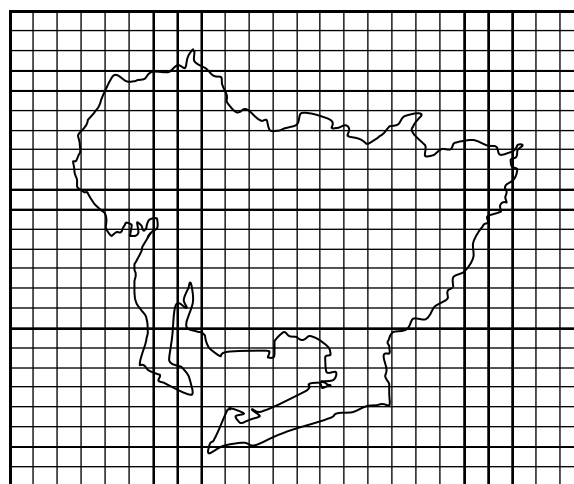
【国内の分布】

北海道、本州 (兵庫県以北の主として日本海側)。

【世界の分布】

カムチャッカ、千島列島、サハリン、日本、ウスリー。

要配慮地区図



【生育地の環境 / 生態的特性】

湿原や疎林下の湿地に生育する。

	山地	丘陵	平野	海浜
森林				
草・岩				
湿地	○			
水域				

【現在の生育状況 / 減少の要因】

造林地内の湧水に涵養された湿地に、少数個体が生育している。ある程度は開花するが、葉長は大きくても 40cm 程度である。植物体が小型で、その状態が安定していること、同所にミカワバイケイソウが生育していること、土地所有者に聞いた範囲では植栽等を行われていないこと (権田昭一郎氏による) などから、自生の可能性が高いと思われる。被陰されているが、現在のところ顕著に衰退しているという状態ではない。

【保全上の留意点】

真に自生であるならば、保全の対象として特に重要な植物である。園芸目的の採取が懸念されるため、保全施策が確立されるまでは生育地情報の公表に際し特に慎重な配慮が必要である。

【特記事項】

レッドデータブックあいち 2001 植物編発行後に愛知県で自生らしい集団が確認された種類である。上記の形態は、この集団についてのものである。極めて有名な植物であるため全国的にあちこちに植栽されており、それが真の自生か否か、保全対象とすべきか否かの判断を困難にしている。自然環境下への植栽は、生物多様性保全に対する深刻な破壊・妨害行為であることを忘れてはならない。

【関連文献】

保草本Ⅲp.190、平草本 I p.138。

ヒメミクリ *Sparganium stenophyllum* Maxim.

【選定理由】

個体数階級 4、集団数階級 4、生育環境階級 4、人為圧階級 2、固有度階級 2。全国的に減少傾向の著しい水草で、愛知県でも生育地、個体数ともに極めて少ない。

【形態】

挺水性の多年生草本。地中を横にはう根茎がある。地上茎は立ち、高さ 30~60cm になる。葉は 2 列に互生し、線形、下部のものは茎より長く、幅 2~5mm、先端は鈍頭、辺縁は全縁、裏面に稜があり、下部は葉鞘となる。花期は 6~8 月、雌雄同株、茎の上部に雄性の頭状花序を 5~11 個つけ、その下に雌性の頭状花序を 2~4 個つけ、更に 1~2 本の枝を出す場合もある。雌性花序は無柄、球形、果期に直径 1~1.3cm になり、果実は倒卵形、長さ 4~5mm である。

【分布の概要】

【県内の分布】

典型的なものは、豊田東部(山崎玲子 906)の 1 カ所で確認されているだけである。作手(鴨ヶ谷, 小林 19122, 1978-6-25)、新城(千郷村杉山, 鳥居喜一 9163, 1943-9-14, HNS M)、岡崎南部(戸崎町, 大原準之助 s.n., 1951-10-4)、刈谷知立(刈谷市牛池, 加藤潤子 116, 1978-6-26)で採集された標本もある。

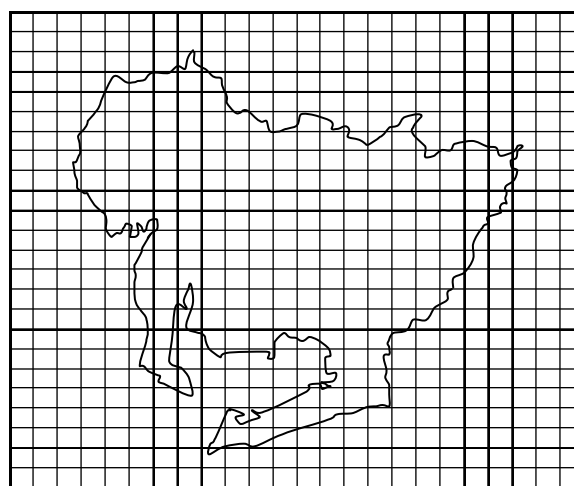
【国内の分布】

北海道、本州、四国、九州、琉球

【世界の分布】

日本、朝鮮半島、中国大陸北部に分布する。インドからオーストラリアにかけて分布する *S. subglobosum* Morong. と同種とする見解もある。

要配慮地区図



【生育地の環境 / 生態的特性】

池沼、湿原などの浅い水中に生育する。

	山地	丘陵	平野	海浜
森林				
草・岩				
湿地				
水域	○	○		

【現在の生育状況 / 減少の要因】

豊田東部では、以前小群落があった位置ではおそらく遷移の進行により消失し、やや離れたところに数株が残存している。土地の管理者には意識されている。作手は湿地の開発、刈谷知立は水の汚れにより絶滅した。

【保全上の留意点】

ヨシなどの大形草本をある程度除去する必要があるが、その一方で過剰管理により自生状態が失われないよう、注意も必要である。

【特記事項】

ヒメミクリに似ているが全体にやや大型でナガエミクリやヤマトミクリとの中間程度、雌性花序に短い柄が出ることもあり(その場合、腋性のこともやや腋上性のこともある)、果実が紡錘形のもので、豊根(芹沢 44562、絶滅)、津具(小林 39054)、作手(小林 53017)、旭(日比野修 3818)、岡崎南部(芹沢 77963)、瀬戸尾張旭(日比野修 2605)などに生育している。この型の植物については、今後更に分類学的な扱いを検討する必要がある。

【関連文献】

保草本Ⅲp.421、平草本Ⅰp.143、SOS旧版p.103、環境庁p.587。
角野康郎, 1994. 日本水草図鑑 p.81. 文一総合出版, 東京。

ヌマクロボスゲ *Carex meyeriana* Kunth

【選定理由】

個体数階級 4、集団数階級 4、生育環境階級 4、人為圧階級 2、固有度階級 2。寒冷地の湿原に生育する植物で、愛知県では生育地、個体数ともに極めて少ない。

【形態】

多年生草本。匍匐枝はなく、大きな株を作る。茎は高さ 30～50cm、3稜があり、基部の葉鞘は栗褐色で硬く、糸網状の繊維に分解する。葉は細い線形、白緑色、幅 1～1.5mm である。果期は 5～7 月、小穂は 2～3 個、頂小穂は雄性、線形で長さ 2～3cm、側小穂は雌性で卵形～楕円形、長さ 0.5～1cm、直径約 5mm、無柄で斜めに立つ。苞は刺状で小さく、鞘はない。果胞は楕円形、長さ 3～3.5mm、密に細突起があって光沢がなく、嘴はごく短い。雌花の柱頭は 3 個である。

【分布の概要】

【県内の分布】

作手（芹沢 81541）。

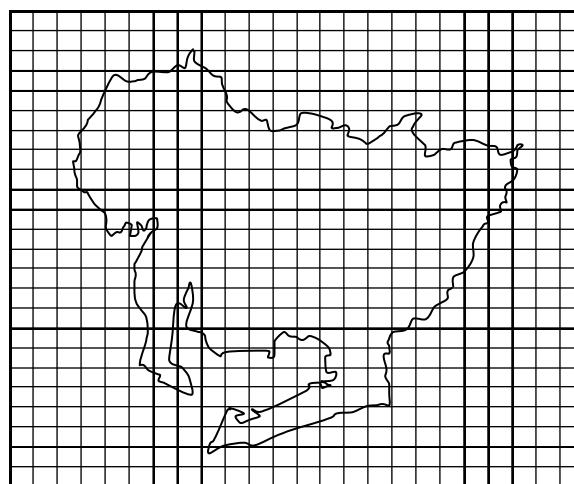
【国内の分布】

本州中北部、九州。

【世界の分布】

日本、朝鮮半島、中国大陸東北部、シベリア。

要配慮地区図



【生育地の環境 / 生態的特性】

山地の湿原に生育する。泥炭湿地で、いわゆる谷地坊主を作ることがある。

	山地	丘陵	平野	海浜
森林				
草・岩				
湿地	○			
水域				

【現在の生育状況 / 減少の要因】

湿原内に数株が生育している。現地では水の汚れのためか一時消失状態になっており、レッドデータブックあいち 2001 植物編では「絶滅」と判断したが、最近になって再確認された。

【保全上の留意点】

現状を維持すれば、とりあえずはそのまま存続すると思われる。新城市作手地区には多数の湿地があったが、その多くは開拓等によって埋め立てられ、良好な自然状態のまま残存しているものは僅かである。現在残存している湿地は大小を問わず注意して保全する必要がある。

【特記事項】

シラカワスゲとも呼ばれる。

【関連文献】

保草本Ⅲ p.283、平草本Ⅰ p.156、SOS 旧版 p.105。
勝山輝男, 2005. ネイチャーガイド 日本のスゲ p.137. 文一総合出版, 東京.

ホザキマスクサ *Carex planata* Franch. et Sav. var. *anguste-alata* Akiyama

【選定理由】

個体数階級 4、集団数階級 4、生育環境階級 4、人為圧階級 2、固有度階級 3。低湿地性の植物で、愛知県は分布域の東限にあたる。県内では生育地、個体数ともに極めて少ない。

【形態】

タカネマスクサ var. *planata* (472 頁) に似ているが、河川敷などの低湿地に生育し、小穂は茎に 8~12 個つき、下部のものは楕円形で長さ 6~8mm、2~3cm 間隔でつくが、上部のものは次第に小さく、また接してつくようになる。頂小穂は雌雄性だが、時にほとんど雄性になる。

【分布の概要】

【県内の分布】

海部西部（芹沢 74595）。

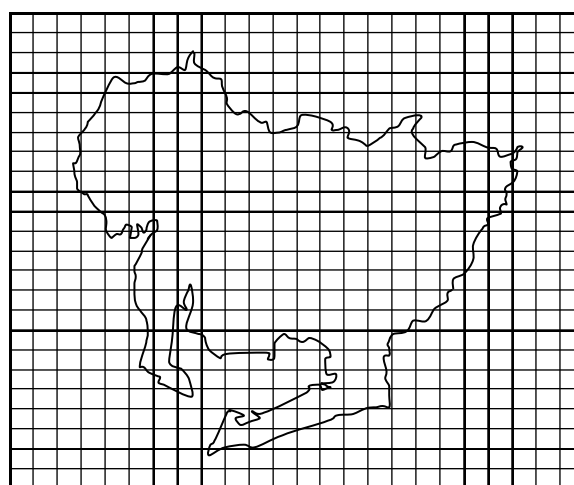
【国内の分布】

西日本に点在する。

【世界の分布】

日本固有。種としても日本固有である。

要配慮地区図



【生育地の環境 / 生態的特性】

河川敷のヤナギ林の林内や林縁に生育する。

	山地	丘陵	平野	海浜
森林				
草・岩				
湿地			○	
水域				

【現在の生育状況 / 減少の要因】

長良川左岸の 1 カ所に少数個体が生育しているだけである。木曾三川の岐阜県側にはやや大きな群落がある。

【保全上の留意点】

河川敷のヤナギ林の保全が必要である。また、河口部の自然の中では潮の干満に伴う水位の変動が大きな要素になっており、長良川の場合河口堰の完成によってこの条件が失われたことが、ホザキマスクサを含む低湿地性植物の今後の存続に対する大きな懸念材料になっている。河口部の自然環境保全を検討するときには、周期的な水位変動の確保を忘れてはならない。

【特記事項】

人間環境大学藤井伸二氏の教示により、タカネマスクサから区別して評価した。分類学的な扱いや詳細な分布は、近日中に同氏によって発表されるはずである。

【関連文献】

SOS 新版 p. 130,132（タカネマスクサとして）。
秋山茂雄, 1955. 極東亜産スゲ属植物 Pl.36 Fig.2. 北海道大学, 札幌。

サギスゲ *Eriophorum gracile* Koch

【選定理由】

個体数階級 3、集団数階級 4、生育環境階級 4、人為圧階級 3、固有度階級 2。寒冷地の湿原に生育する植物で、愛知県では生育地も個体数も極めて少なく、開発行為の影響で危機的な状況である。

【形態】

多年生草本。長くはう地下茎がある。地上茎は株をつくらず、高さ 20～50cm、鈍い 3 稜がある。葉は茎の基部につき、葉身は針状、通常茎より短く、基部は鞘となる。花期は 6～8 月、小穂は茎の先端に 3～6 個つき、ほとんど無柄のものから長さ 3cm 程度の柄があるものまであり、花時には長楕円形、長さ 5～10mm、鱗片は長楕円形で鈍頭、淡灰黒色である。果実は倒披針状楕円形、長さ 3～3.5mm、花被片は多数あり、果時には白色の綿毛状となって長さ 2cm ほどに伸び、そのため小穂は倒卵形の白いかたまりになる。

【分布の概要】

【県内の分布】

作手（芹沢 79694）。

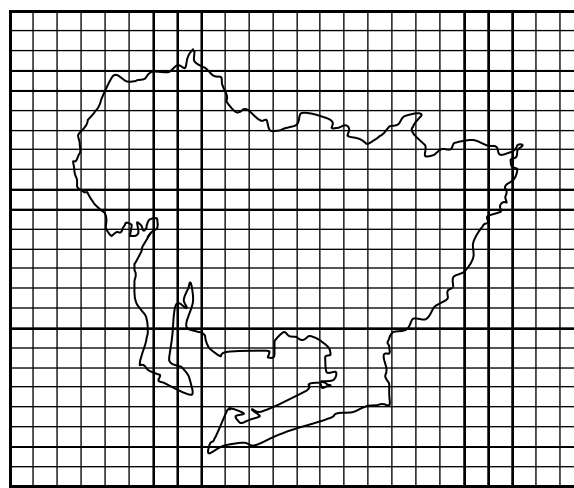
【国内の分布】

北海道および本州（近畿地方以北）。

【世界の分布】

北半球の北部に広く分布する。

要配慮地区図



【生育地の環境 / 生態的特性】

山地の湿原に生育する。

	山地	丘陵	平野	海浜
森林				
草・岩				
湿地	○			
水域				

【現在の生育状況 / 減少の要因】

作手村の中でも 1 カ所に生育しているだけで、個体数もそれほど多いものではない。道路建設により湿地の相当部分が埋め立てられ大きな影響を受けたが、その後は小康状態のまま存続している。

【保全上の留意点】

作手村には多数の湿地があったが、その多くは開拓等により埋め立てられ、良好な自然状態のまま残存しているものは僅かである。本種の生育地もその僅かな場所の一つであり、注意して保全する必要がある。

【特記事項】

和名は、綿毛状の花被片を白鷺に例えたものである。

【関連文献】

保草本Ⅲp.223、平草本Ⅰp.176、SOS 旧版 p.106、SOS 新版 p.62,64。

イッスンテンツキ *Fimbristylis kadzusana* Ohwi

【選定理由】

個体数階級 3、集団数階級 4、生育環境階級 4、人為圧階級 3、固有度階級 4。千葉県の一部と本地域に固有の希少種で、県内でも生育地が極めて少なく、また減少傾向も著しい。

【形態】

1 年生草本。茎は束生し、高さ 10~25cm になる。葉は叢生し、線形、長さ 3~8cm、幅約 1mm、葉鞘は無毛である。花期は 9~10 月、小穂は茎の先端に 1~6 個つき、ほとんど無柄のものから長さ 5cm 程度の柄があるものまであり、長楕円形、長さ 5~12mm、褐色で光沢がなく、鱗片は長楕円形、やや太い緑色の中肋が短く突出する。果実は広倒卵形でレンズ状、長さ約 1mm、熟して黒褐色となる。

【分布の概要】

【県内の分布】

新城（芹沢 78862）。豊橋南部（野依町，芹沢 57490, 1990-10-9）にもあったが絶滅した。

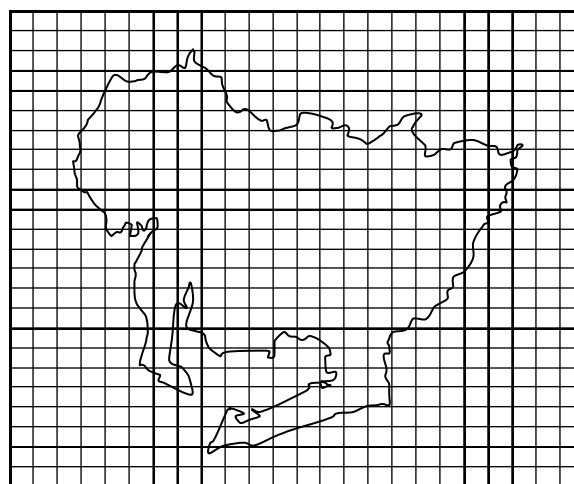
【国内の分布】

本州（千葉県、静岡県西部、愛知県東部）に稀に生育する。

【世界の分布】

日本固有種。

要配慮地区図



【生育地の環境 / 生態的特性】

湧水湿地の半裸地状の場所に生育する。

	山地	丘陵	平野	海浜
森林				
草・岩				
湿地		○		
水域				

【現在の生育状況 / 減少の要因】

新城には小群落があるが、遷移の進行により裸地状の場所が消失することが懸念される。豊橋南部では湿地が乾燥化して草本や陽性低木が繁茂し、絶滅した。

【保全上の留意点】

愛知県の丘陵地に点在する湧水湿地には、本種以外にもこの地域を特徴づける植物が集中して生育している。保全上の優先順位も高い。湧水湿地の保全のためには、湿地本体だけでなく、湧水を涵養する水源部の地形もあわせて保全する必要がある。

【特記事項】

小型の植物なので 1 寸テンツキと命名されているが、よく育ったものは高さ 25cm（約 8 寸）くらいになる。

【関連文献】

保草本Ⅲp.232、平草本 I p.174、SOS 旧版 p.107、環境庁 p.221、SOS 新版 p.110,112。

ナガボテンツキ *Fimbristylis longispica* Steud.

【選定理由】

個体数階級 4、集団数階級 4、生育環境階級 3、人為圧階級 3、固有度階級 2。低湿地性の植物で、愛知県では生育地、個体数ともに極めて少ない。

【形態】

多年生草本。茎は少数が束生して直立し、やや硬く、高さ 50~80cm になる。葉は叢生し、線形、幅 2~4mm、葉鞘は無毛である。花期は 8~10 月、花序は一部複散形状、枝は長いもので 10 cm に達し、苞は葉状で長いものは 25cm に達する。小穂は細長い楕円形~披針形、長さ 7~15mm、直径 2.5~3mm、黄褐色~淡褐色で、濃い栗褐色の部分はほとんどない。果実は広倒卵形でレンズ状、長さ約 1mm である。

【分布の概要】

【県内の分布】

海部南部 (芹沢 49718, 1988-8-19)。

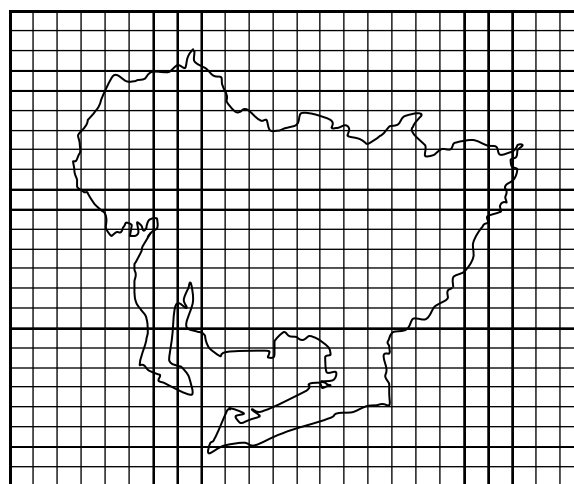
【国内の分布】

本州 (伊豆諸島および中部地方以西)、四国、九州。

【世界の分布】

日本、朝鮮半島南部、中国大陸、マリアナ諸島。

要配慮地区図



【生育地の環境 / 生態的特性】

海岸近くの低湿地に生育する。

	山地	丘陵	平野	海浜
森林				
草・岩				
湿地				○
水域				

【現在の生育状況 / 減少の要因】

木曾川河口部の 1 カ所に少数個体が生育していた。隣接する三重県側にはややまとまった群落があり、その端が辛うじて愛知県内に達しているという状況であったが、河川敷の開発のため生育していたヨシ群落が消失し、現在は生育が確認できない。厳密には絶滅であるが、そのうちに分布を拡大してくる可能性があるため絶滅危惧 I A 類と評価しておく。

【保全上の留意点】

河川敷は、平野部の本来の自然の姿を残す貴重な場所であり、絶滅危惧植物も多く生育していて、保全上の重要性が高い。とりわけ本種が生育するような河口部では、護岸や埋め立てが進み、自然状態が残されている場所は僅かである。現在ヨシ群落が残されている場所は、帯状の狭い場所でも、注意して保全する必要がある。

【特記事項】

オテンツキ *F. dichotoma* (L.) Vahl form. *diphylla* Ohwi に似ているが、より大型で、生育環境も異なる。オテンツキも、愛知県では希少な植物である。

【関連文献】

保草本Ⅲp.234、平草本 I p.175、SOS 旧版 p.107。

ミクリガヤ *Rhynchospora malasica* C.B.Clarke

【選定理由】

個体数階級 4、集団数階級 4、生育環境階級 4、人為圧階級 2、固有度階級 3。全国的に減少傾向の著しい湿地性植物で、愛知県でも生育地、個体数ともに極めて少ない。

【形態】

多年生草本。地下茎は長くはう。茎は通常単生して直立し、高さ 40~100cm、中部に多数の葉をつけ、花序のつかない茎もやや伸長する。葉は互生し、幅広い線形、幅 5~10mm、先は長くとがり、下部は長い鞘となる。花期は 6~7 月、頭状花序は球状で直径 1.5cm、無柄、茎の上部に 2~5 個がやや離れてつく。小穂は披針形、長さ 6~7mm、黄褐色である。果実は長さ約 2mm、刺針状花被片は 6 個で、長さは果実本体の 2 倍程度である。

【分布の概要】

【県内の分布】

豊橋北部（永田芳男 s.n.）。名古屋北部（田代、井波一雄 s.n., 1934-10-14, CBM72362）で採集された標本もある。

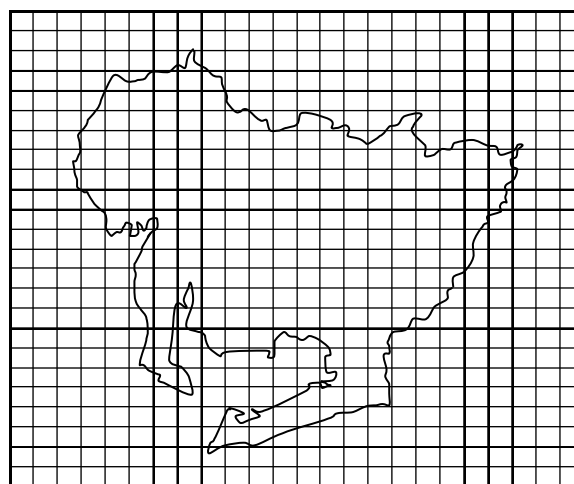
【国内の分布】

本州（東海地方以西）、九州、琉球。

【世界の分布】

日本、台湾、マレーシア。

要配慮地区図



【生育地の環境 / 生態的特性】

丘陵地の湿地に生育する。

	山地	丘陵	平野	海浜
森林				
草・岩				
湿地		○		
水域				

【現在の生育状況 / 減少の要因】

豊橋北部（葦毛湿原）では、20 年ほど前には 2m²ほどのまとまった小群落があったが、イヌツゲやコシダが侵入して圧迫され、現在では数株が残存しているだけである。

【保全上の留意点】

イヌツゲなどの侵入は湿地の乾燥化に伴う遷移であり、本質的には水源部の森林を伐採してやせ山状態を回復し、水収支の回復を図る必要がある。ただし本種に関しては、県内では他に自生地がないため、対症的にイヌツゲなどを除去し、個別的な保全を図るべきである。試みに一部のイヌツゲを除去したところ、個体数はやや増加した。

【特記事項】

「日本の野生植物」 I 152 図版には、葦毛湿原で 1972 年に撮影された写真が掲載されている。

【引用文献】

大原準之助, 1971. .愛知県国有林の植物誌 p.141. 名古屋営林局, 名古屋.

【関連文献】

保草本Ⅲp.252、平草本 I p.170、SOS 旧版 p.107、環境庁 p.392、SOS 新版 p.107,109。

カガシラ *Scleria caricina* (R.Br.) Benth.

【選定理由】

個体数階級 3、集団数階級 4、生育環境階級 4、人為圧階級 3、固有度階級 2。全国的に減少傾向の著しい小型の湿地性植物で、愛知県でも生育地、個体数ともに極めて少ない。

【形態】

小型の1年生草本。根は赤褐色となる。茎は単生または基部でまばらに分枝し、高さ5~20cmになる。葉は5~10個が互生し、狭披針形、長さ1~4cm、幅1.3~4mm、先端は鋭頭、葉鞘は短く、長さ2~8mmである。花期は7~10月、花序は最下2~3個を除く葉の葉腋につき、小型で頭状、長さ、幅とも2~5mm、密に小穂をつける。小穂は長さ1.2~2mm、淡緑色、小花は単性で、花被片はない。果実は球形で直径約0.8mm、2個の小さい3角状卵形の鱗片に包まれ、熟すと鱗片とともに脱落する。

【分布の概要】

【県内の分布】

新城（小林 60156）。豊橋南部（細谷町，芹沢 56673, 1990-8-28）にもあったが絶滅した。豊川宝飯（一宮村足山田，鳥居喜一 10759, 1947-10-12, HNSM）、豊橋北部（岩田町葦毛，鳥居喜一 8940, 1952-10-5, HNSM）、藤岡（井波一雄 s.n., 1959-9-13, CBM75885）、瀬戸尾張旭（曾野~余床，井波一雄 s.n., 1955-10-15, CBM157413；旭村新居，加藤秀次郎 s.n., 1941-9-16, TNS）、名古屋北部（守山区上志段味，飯尾俊介 s.n., 1964）で採集された標本もある。

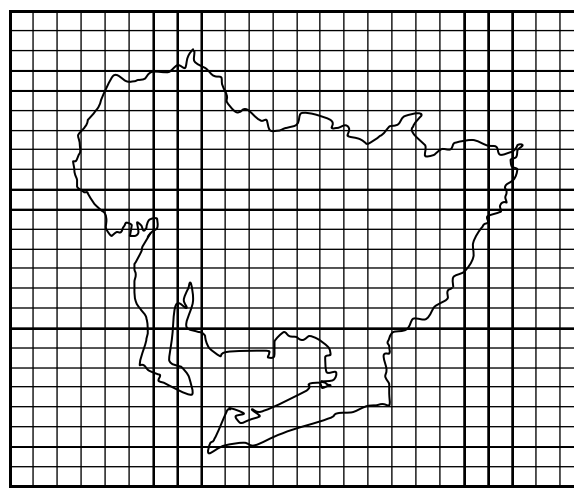
【国内の分布】

本州（千葉県以西）、四国、九州、琉球。

【世界の分布】

日本、台湾、マレーシア、インド、オーストラリア。

要配慮地区図



【生育地の環境 / 生態的特性】

丘陵地の湿地の、半裸地状の場所に生育する。

	山地	丘陵	平野	海浜
森林				
草・岩				
湿地		○		
水域				

【現在の生育状況 / 減少の要因】

現在のところ2カ所で確認されているが、ごく最近の状況は不明である。豊橋南部では、湿地の富栄養化により大形の草本が繁茂し、被陰されて絶滅した。

【保全上の留意点】

湧水湿地を、水源部の地形を含めて保全することが必要である。また、一般的には湿地周辺の森林化の進行が富栄養化の原因になっていると思われるので、周辺の樹木を伐採して持ち出し、やせ山状態を維持することも必要である。

【特記事項】

小型で目立たない植物なので、調査の際には注意が必要である。

【関連文献】

保草本Ⅲp.254、平草本Ⅰp.168、SOS旧版p.108、環境庁p.393。

ナギラン *Cymbidium lancifolium* Hook.

【選定理由】

個体数階級 4、集団数階級 4、生育環境階級 3、人為圧階級 3、固有度階級 2。暖地性の植物で、愛知県では生育地も個体数も極めて少なく、また園芸目的の採取圧も高い。

【形態】

常緑性の多年生草本。茎の基部はややふくらみ、小型の偽球茎となる。葉は1~3個が束生し、披針形、長さ20~30cm、幅2~3cm、先端は鋭尖頭、基部は次第に細まって長い柄となり、先端部の辺縁には微少な鋸歯があり、葉質は革質である。花期は6~7月、花茎は高さ10~15cmで少数の鱗片葉があり、花はその上部にまばらに2~4個つき、白色でわずかに淡紫色を帯び、苞は膜質で線状披針形、長さ8~15mmである。がく片は線状披針形、長さ2.2~2.5cm、幅2.5~3mm、先端は鋭尖頭、側花弁は長楕円形で、がく片よりやや短い。唇弁は倒卵状楕円形、長さ約8mm、浅く3裂し、中裂片の先は3角形に細くなり鈍頭、肉質、内面は白色で数個の大型の紫褐色の斑点がある。

【分布の概要】

【県内の分布】

田原赤羽根（小林 50187）。渥美にもあるという（小林, 2002）。

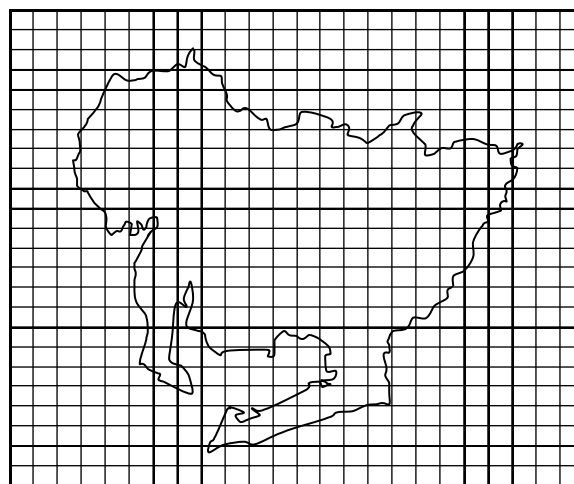
【国内の分布】

本州（関東地方南部以西）、四国、九州、琉球。

【世界の分布】

日本、台湾、東南アジア、マレーシア、ヒマラヤ。

要配慮地区図



【生育地の環境 / 生態的特性】

暖地の常緑広葉樹林下に生育する。

	山地	丘陵	平野	海浜
森林	○	○		
草・岩				
湿地				
水域				

【現在の生育状況 / 減少の要因】

2カ所で確認されているが、どちらも個体数は僅かである。山草愛好家に発見されれば、絶滅は必至である。よく茂った常緑広葉樹林内に生育する植物なので、伐採により失われるおそれもある。

【保全上の留意点】

生育地の森林を保全することが必要である。園芸目的の採取を防止するため、分布情報の公表に際し慎重な配慮が必要である。

【引用文献】

小林元男, 2002. 渥美半島の植物 p.71, 174. 東三林業振興会, 豊橋.

【関連文献】

保草本Ⅲp.64、平草本Ⅰp.229、SOS旧版p.110、環境庁p.613、SOS新版p.35,37.

マヤラン *Cymbidium nipponicum* (Franch. et Sav.) Makino

【選定理由】

個体数階級 4、集団数階級 4、生育環境階級 3、人為圧階級 3、固有度階級 2。緑葉のない腐生植物で、全国的にも愛知県でも、生育地、個体数ともに極めて少ない。

【形態】

腐生の多年生草本。根茎は地中をはってまばらに分枝し、白色、三角状の鱗片をつけ、根はない。花期は7～8月、花茎は直立し、高さ10～30cm、下部に基部が短い鞘となる膜質の鱗片葉をまばらに数個つける。花は茎の上部にまばらに2～6個つき、白色で紅紫色をおび、苞は膜質で広披針形、長さ5～10mmである。がく片は倒披針形、長さ約2cm、幅3～4mm、先端は鋭頭、側花弁は長楕円形でがく片よりやや短い。唇弁はくさび状長楕円形、長さ約15mm、3裂するが側裂片は小さく、中裂片は先端が細波状となり、2本の隆起条がある。

【分布の概要】

【県内の分布】

鳳来北東部（芹沢 68792, 1993-10-7）と豊田東部（山崎玲子 1704, 1998-8-25）で生育が確認されている。岡崎北部の記録もある（大原, 1975）が、裏付けとなる標本は残されていない。

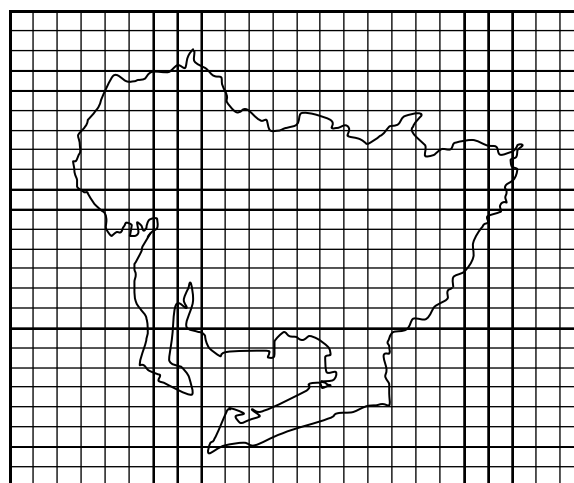
【国内の分布】

本州（関東地方南部以西）、四国、九州、琉球。

【世界の分布】

日本固有種。

要配慮地区図



【生育地の環境 / 生態的特性】

暖地の樹林下に生育する。

	山地	丘陵	平野	海浜
森林	○			
草・岩				
湿地				
水域				

【現在の生育状況 / 減少の要因】

2カ所で確認されているが、どちらも偶然発見されたもので、現在のところ確実に観察できる場所は知られていない。鳳来北東部では生育地の森林が伐採されたため、その場所での再発見は困難と思われる。

【保全上の留意点】

あまりにも出現頻度の低い植物で、効果的な保全対策は立てにくい。過去に生育が確認された場所の森林を保全することが必要である。

【引用文献】

大原準之助, 1975. 植物新分布報告(9). 植物研究集録 16: 83-86 + 表紙写真.

【関連文献】

保草本Ⅲp.66、平草本Ⅰp.230、SOS旧版p.110+図版3、環境庁p.399.

コアツモリソウ *Cypripedium debile* Reichb.f.

【選定理由】

個体数階級 3、集団数階級 4、生育環境階級 3、人為圧階級 3、固有度階級 2。愛知県では生育地が極めて少ない。総点は 15 であるが、園芸目的の採取圧が高いため CR と評価する。

【形態】

多年生草本。地下茎は横にはう。地上茎は高さ 10~20cm、無毛である。葉は 2 枚が対生し、無柄、葉身は広卵形、長さ 2.5~5cm、幅 2~5cm、3~5 本の脈があり、先端は鋭頭、辺縁は波うって毛状突起があり、表面には光沢がある。花期は 5~6 月、花茎は葉の間から出て細く、花はその先端に 1 個、垂れ下がって隠れるようにつき、淡黄緑色、直径約 2cm、苞は線形、長さ 1.5~3cm である。背がく片は卵状披針形、側がく片は 2 枚が合着して楕円状披針形、側花弁は狭披針形、いずれも長さ 1~1.5cm、唇弁は袋状、長さ約 1cm で暗紅紫色の条斑がある。花茎は果期には直立する。

【分布の概要】

【県内の分布】

豊根 (加藤等次 4454)。

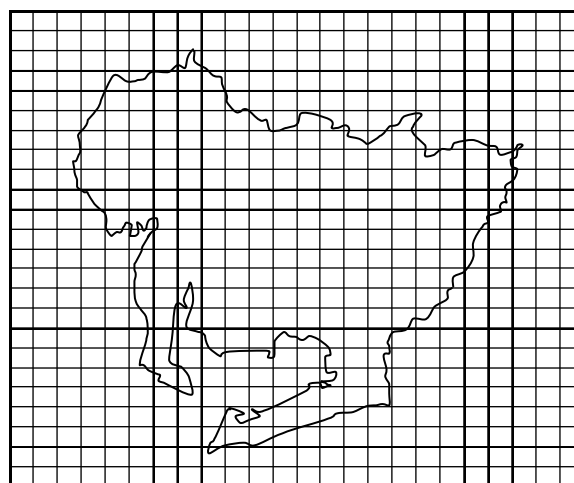
【国内の分布】

北海道西南部、本州中北部、四国 (高知県)、九州 (熊本県)。

【世界の分布】

日本、中国大陸。

要配慮地区図



【生育地の環境 / 生態的特性】

山地の林内に生育する。

	山地	丘陵	平野	海浜
森林	○			
草・岩				
湿地				
水域				

【現在の生育状況 / 減少の要因】

生育範囲は狭い。以前はかなりの個体数が見られたが、園芸目的の採取のために激減している。

【保全上の留意点】

現在以上の採取を防止するため、分布情報の公表に際し慎重な配慮が必要である。

【特記事項】

花は下向きにつくため、自然状態では目立ちにくい。

【関連文献】

保草本Ⅲp.6、平草本Ⅰp.191、SOS旧版 p.110、環境庁 p.613。

サワラン *Eleorchis japonica* (A.Gray)F.Maek.

【選定理由】

個体数階級 3、集団数階級 3、生育環境階級 4、人為圧階級 4、固有度階級 2。貧栄養の湿地に生育する植物で、園芸目的で集中的に採取されており、減少傾向が著しい。

【形態】

多年生草本。卵状の偽球茎がある。茎は細く、直立して高さ 15~30cm、基部近くに 2 個の鞘状葉がある。葉は 1 個つき、広線形でほぼ直立し、長さ 6~15cm、幅 4~8mm、縦の脈が目立ち、先端は鋭頭、基部は鞘となって茎をつつむ。花期は 7 月、花は茎の先端に通常 1 個つき、紅紫色で横向きに半開し、苞は三角形、長さ 2~3mm である。がく片と側花弁は倒披針形で、長さ 2~2.5cm、先端は鈍~鋭頭、唇弁は倒卵状楕円形、他の花被片とはほぼ同長、先端で浅く 3 裂し、中裂片には縦の隆起条がある。

【分布の概要】

【県内の分布】

設楽西部（芹沢 59095）、作手（芹沢 55483）、旭（芹沢 55895）。このほか豊橋北部（葦毛湿原）でも生育を確認しているが、標本は採取していない。名古屋北部（東山，井波一雄 s.n., 1958-6-13, CBM195368）で採集された標本もある。

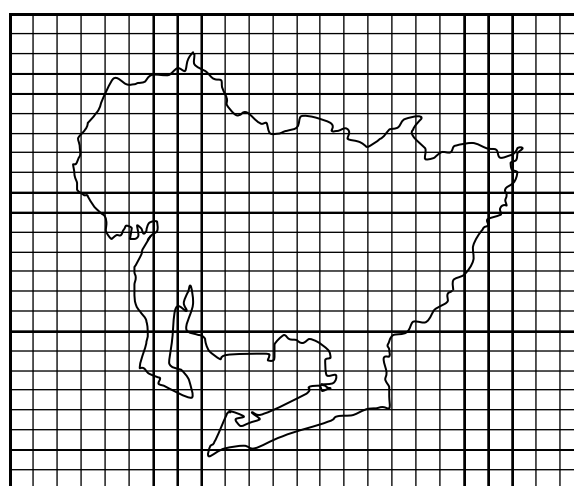
【国内の分布】

北海道、本州中部以北。

【世界の分布】

南千島および日本。

要配慮地区図



【生育地の環境 / 生態的特性】

日当たりのよい貧栄養の湿地に生育する。

	山地	丘陵	平野	海浜
森林				
草・岩				
湿地	○	○		
水域				

【現在の生育状況 / 減少の要因】

どの場所も、個体数は極めて少ない。かつてはトキソウとともに（ただしトキソウよりは少なかつたらしい）あちこちの湿地で見られたようで、大原（1971）は愛知県での産地として、名古屋、西尾、吉良、渥美のような丘陵地もあげている。しかし、園芸の対象として乱獲されたために、現在では丘陵地ではほぼ絶滅状態である。本種の場合サギソウやトキソウのような効果的な栄養繁殖の手段を持たないため、一度減少すると、なかなか再増加できないようである。

【保全上の留意点】

園芸目的の採取を防止するため、分布情報の公表に際し慎重な配慮が必要である。

【特記事項】

アサヒランとも呼ばれる。

【引用文献】

大原準之助, 1971. 愛知県国有林の植物誌 p.151. 名古屋営林局, 名古屋.

【関連文献】

保草本Ⅲp.47、平草本Ⅰp.220、SOS 旧版 p.110+図版 19.

ナヨテンマ *Gastrodia gracilis* Blume

【選定理由】

個体数階級 4、集団数階級 4、生育環境階級 3、人為圧階級 2、固有度階級 3。全国的に希少な腐生植物で、愛知県でも生育地、個体数ともに極めて少ない。

【形態】

腐生の多年生草本。根茎はやや太く肥厚する。茎は直立し、高さ10~60cm、黄褐色をおび、鞘状で長さ3~4mmの鱗片葉を4~5個まばらにつける。花期は6~7月、茎の先端部に黄褐色の花を5~15個、密な総状花序につける。苞は卵形、長さ2.5~3mmである。花は3がく片が合着して長さ6~7mmのつぼ状になり、基部の下側はややふくらみ、口部は斜めになって3裂し、裂片の内側に小さい2個の側花弁がある。唇弁は3角形である。花柄は花時には長さ4~7mmであるが、花後伸長して5cmに達する。

【分布の概要】

【県内の分布】

豊川宝飯（青山正宏 s.n., 1992-7-2）で1回採集されたことがある。

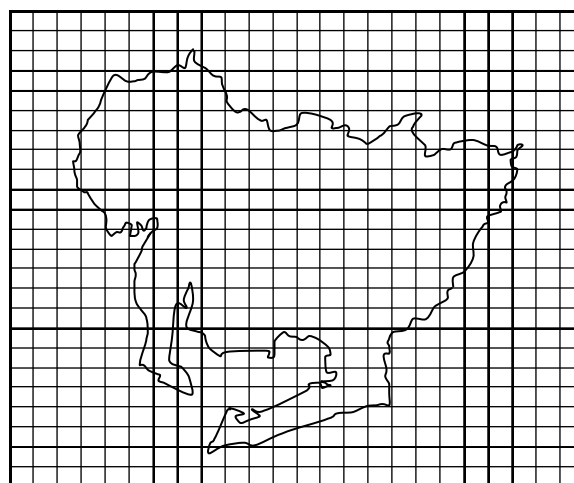
【国内の分布】

本州（千葉県、静岡県、愛知県、広島県）、四国、九州に稀に生育する。

【世界の分布】

日本固有種。

要配慮地区図



【生育地の環境 / 生態的特性】

山地の林内に生育する。

	山地	丘陵	平野	海浜
森林	○			
草・岩				
湿地				
水域				

【現在の生育状況 / 減少の要因】

1回2個体が確認されただけで、そのあたりを何度か探索したが、再発見できない。現地の状態は特に改変されておらず、また毎年地上部が出るとは限らない植物なので、そのうちに再度出現する可能性はある。

【保全上の留意点】

生育地の森林を保全することが必要である。

【特記事項】

全国的にも生育地が少なく、新種として記載された後長い間再確認されなかった植物である。

【関連文献】

保草本Ⅲp.27、平草本Ⅰp.204、SOS旧版p.111、環境庁p.237。

ムカゴトンボ *Habenaria flagellifera* Makino

【選定理由】

個体数階級 4、集団数階級 4、生育環境階級 4、人為圧階級 3、固有度階級 3。湿った草地に生育する植物で、全国的に減少傾向が著しく、愛知県でも生育地、個体数ともに極めて少ない。

【形態】

多年生草本。卵形～楕円形の球茎がある。茎は直立し、高さ 20～50cm になる。葉は茎の下部につき、鞘状のものを除いて 4～5 個が互生し、葉身は広披針形、長さ 4～10cm、幅 1～2.5cm、先端は鋭尖頭、基部は次第に細まって葉鞘となる。上部の葉は小さく、鱗片状になる。花期は 9～10 月、花は茎の上部にやや多数つき、長さ 10～25cm の穂状花序となり、直径 5～6mm で淡緑色、苞は広披針形、長さ 5～10mm である。背がく片は狭卵形、長さ約 3mm、側がく片はやや細く、花時に反り返り、側花弁は斜卵形、背がく片に接してかぶと状になる。唇弁は長さ約 4mm、基部の近くで 3 裂し、中裂片は舌状、側裂片は糸状で長さ 6～7mm、距は棍棒状で長さ 3～4mm である。

【分布の概要】

【県内の分布】

豊田北西部(芹沢 63026)。ただし最近の状況は調査されていない。大原(1971)は産地として知多、岡崎をあげているが、裏付けとなる資料は残されていない。

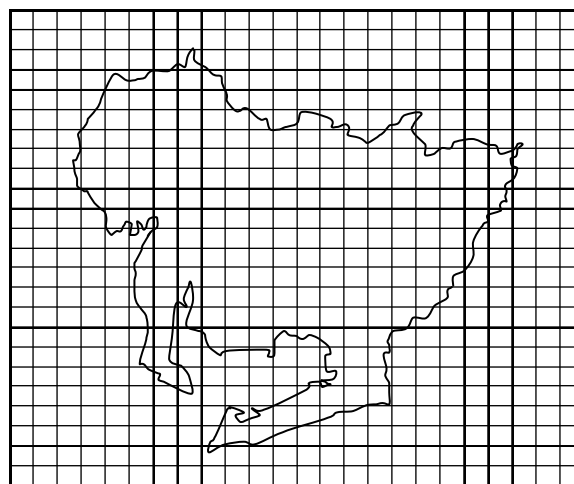
【国内の分布】

本州(千葉県以西)、四国、九州、琉球(奄美諸島)。

【世界の分布】

日本固有種。

要配慮地区図



【生育地の環境 / 生態的特性】

丘陵地の日当たりのよい湿地に生育する。

	山地	丘陵	平野	海浜
森林				
草・岩				
湿地		○		
水域				

【現在の生育状況 / 減少の要因】

狭い範囲に、3 株ほど生育していたにすぎない。過去の状況はよくわからないが、減少の要因としては草地の減少が考えられる。

【保全上の留意点】

全国的に希少な植物であり、生育地の個別的な保全が必要である。花が美しい種類ではないが、希少ということで好事家に採取されるおそれがあり、分布情報の公表に際しては慎重な配慮が必要である。

【特記事項】

茎や葉は、乾燥すると黒くなる。

【引用文献】

大原準之助, 1971. 愛知県国有林の植物誌 p.152. 名古屋営林局, 名古屋.

【関連文献】

保草本Ⅲp.9、平草本 I p.192、SOS 旧版 p.111、環境庁 p.238.

フガクスズムシソウ *Liparis fujisanensis* F.Maek.

【選定理由】

個体数階級 4、集団数階級 4、生育環境階級 3、人為圧階級 3、固有度階級 2。自然度の高い森林に依存する着生植物で、愛知県では生育地、個体数ともに極めて少ない。

【形態】

多年生草本。茎は高さ4~10cm、基部はふくらんで偽球茎となり、1~2年残存して横に並ぶ。葉は茎の基部につき、鞘状のものを除き2個、葉身は卵形、長さ1.5~5cm、幅1~3cm、先端は鋭頭、基部はくさび形で、やや鞘状に茎を抱く。花期は5~6月、花は茎の上部に少数つき、紅紫色を帯びた緑色、苞は長三角形で長さ1~2mmである。背がく片は倒披針形、長さ7~10mm、側がく片はやや幅が広く、側方に開出し、側花弁は糸状で下に垂れる。唇弁は倒長卵形で強く曲がり、長さ7~11mm、幅6~10mm、先はほとんど切形で凸端、辺縁に細歯牙がある。

【分布の概要】

【県内の分布】

稲武で採集されたことがある（標本：同産植栽、本多澄夫 s.n.）。

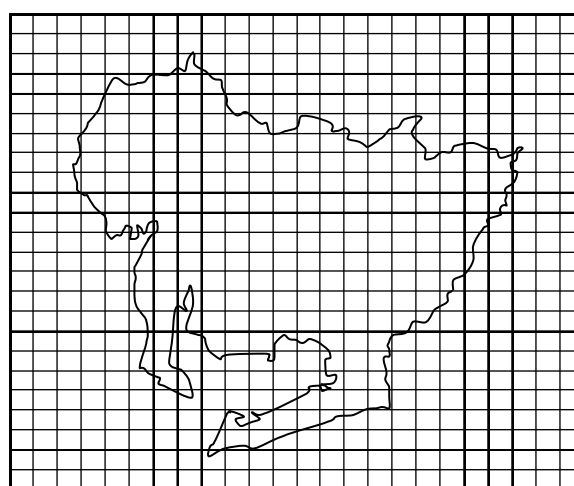
【国内の分布】

本州（中部地方、近畿地方）。

【世界の分布】

日本固有種。

要配慮地区図



【生育地の環境 / 生態的特性】

山地のブナ林の樹上に着生する。

	山地	丘陵	平野	海浜
森林	○			
草・岩				
湿地				
水域				

【現在の生育状況 / 減少の要因】

倒木に着生していたという。同じ林内の他の木にも着生している可能性が高いが、現存は確認できない。

【保全上の留意点】

自然林は愛知県では僅かに残存するだけであり、現在残っている林は厳重に保全する必要がある。園芸目的の採取を防止するため、分布情報の公表に際し慎重な配慮が必要である。

【特記事項】

側がく片が側方に開出すること、唇弁が強く反巻することなどの点でクモキリソウに似ているところがあり、クモキリソウとスズムシソウの自然雑種という説もあるが、おそらくそのようなものではない。

【関連文献】

平草本 I p.219、SOS 旧版 p.112、環境庁 p.407。

スズムシソウ *Liparis makinoana* Schltr.

【選定理由】

個体数階級 4、集団数階級 4、生育環境階級 3、人為圧階級 3、固有度階級 2。山地性のラン科植物で、県内では生育地も個体数も極めて少なく、また園芸目的の採取圧も高い。

【形態】

多年生草本。茎は高さ 10~20cm、基部はふくらんで偽球茎となり、1~2 年残存して横に並ぶ。葉は茎の基部につき、鞘状のものを除き 2 個、葉身は楕円形~長楕円形、長さ 4~12cm、幅 2.5~7cm、先端は鈍頭~やや鋭頭、基部はくさび形で、やや鞘状に茎を抱く。花期は 5~7 月、花は花茎の上部に 10 個内外つき、淡暗紫色で直径約 3cm、苞は卵状 3 角形で開出し、長さ 1~2mm である。がく片は広線形、長さ 10~15mm、先端は鋭頭、側花弁は糸状である。唇弁は倒卵形、長さ 10~15mm、幅 8~12mm、先は円頭で凸端、辺縁には細歯牙がある。

【分布の概要】

【県内の分布】

旭 (小林 37322)。

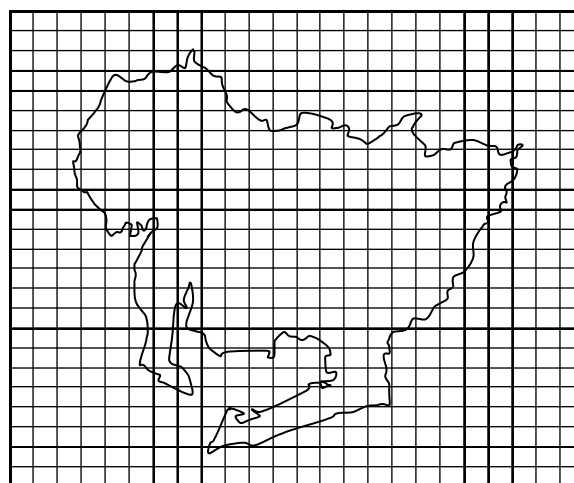
【国内の分布】

北海道、本州、四国、九州。

【世界の分布】

日本および朝鮮半島。

要配慮地区図



【生育地の環境 / 生態的特性】

山地の林内に生育する。

	山地	丘陵	平野	海浜
森林	○			
草・岩				
湿地				
水域				

【現在の生育状況 / 減少の要因】

小群落があるだけで、山草愛好家に発見されれば絶滅は必至である。

【保全上の留意点】

園芸目的の採取や物見高い自称自然愛好家による攪乱を防止するため、分布情報の公表に際し慎重な配慮が必要である。

【関連文献】

保草本Ⅲp.52、平草本Ⅰp.219、SOS 旧版 p.112。

ツレサギソウ *Platanthera japonica* (Thunb.)Lindl.

【選定理由】

個体数階級 4、集団数階級 4、生育環境階級 3、人為圧階級 3、固有度階級 2。愛知県では生育地、個体数ともに極めて少なく、また園芸目的の採取圧も高い。

【形態】

多年生草本。根は太いひも状で水平に伸びる。茎は直立し、高さ 40～60cm になる。葉は互生し、下方の 3～5 枚は大型、葉身は長楕円形で長さ 10～20cm、幅 4～7cm、先端は鋭頭、基部は葉鞘となる。上部の葉は小さくなる。花期は 5～6 月、花は茎の上部の長さ 10～20cm の花序に密につき、白色、苞は線状披針形で花より長い。背がく片は楕円形、長さ 7～8mm、側がく片は斜卵形、側花弁は斜 3 角形で、背がく片に接してかぶと状となる。唇弁は長楕円形で長さ 13～15mm、先端は鈍頭、基部の両側に突起があり、距は長さ 3～4cm で下垂する。

【分布の概要】

【県内の分布】

富山 (小林 51245)。設楽と稲武 (絶滅) にもあるという (小林, 2006)。豊根 (坂宇場, 加藤等次 s.n., 1968-6-23) で採集された標本もある。

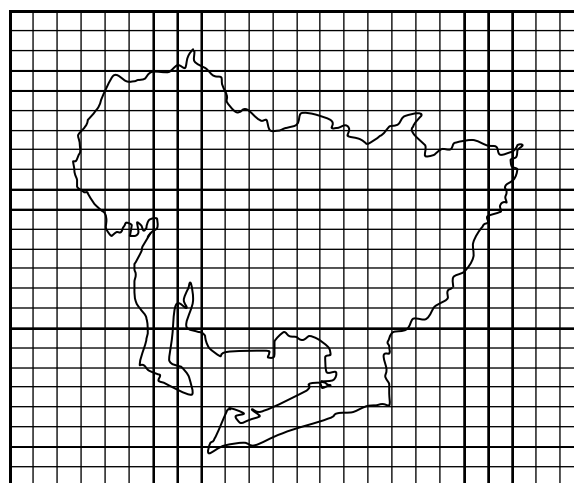
【国内の分布】

北海道南部、本州、四国、九州、琉球。

【世界の分布】

日本、中国大陸。

要配慮地区図



【生育地の環境 / 生態的特性】

山地の草原や林縁に生育する。

	山地	丘陵	平野	海浜
森林	○			
草・岩	○			
湿地				
水域				

【現在の生育状況 / 減少の要因】

少数個体があるだけで、花をつける個体は更に僅かである。生育地は人目につきにくい場所であるが、山草愛好家に発見されれば即絶滅の可能性が高い。森林の手入れ不足による消滅も懸念される。

【保全上の留意点】

造林地については、間伐など適切な手入れが必要である。園芸目的の採取やカメラマン、観察者による攪乱を防止するため、分布情報の公表に際し慎重な配慮が必要である。

【特記事項】

和名は、サギソウに似た白花が連れ立って咲くからである。

【引用文献】

小林元男, 2006. 北設楽の植物 p.85, 243. 愛知県林業試験推進協議会, 新城.

【関連文献】

保草本Ⅲp.23、平草本Ⅰp.196、SOS 旧版 p.114.